

教職基礎				単位数	2単位
授業コード	16000	科目ナンバリング	510Z0-1000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
「教育を受ける立場」から「教師としての立場」に立ち、専門職である教師の仕事の意味や特徴を学習する。また、教職を将来の職業として選択する場合に、自身の教職への適性も考えながら、意思決定を行う支援も授業の趣旨に含まれている。授業は講義だけでなく、時事的な資料や優れた実践を記録した動画などを視聴し、教育全般についての話し合いの機会も設ける。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	教職を強く志望し、将来ぜひとも教師になろうという意思を持つことができる。			思考・判断・表現力／主体性	
2	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について身に付け、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への取り組み度（20%）			1／2	
2	レポート（80%）			1／2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において学校教育に携わっていた経験から、中等教育における諸課題を具体的に把握しており、教師としての資質・能力とは何かを中心に教職の意義と教師の育つ道筋を考察させることを通して、教職意識の涵養を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. オリエンテーション					
事前学修	教職を将来の職業として選択することを前提とした自身の教職への適性について考えをまとめておく。			2時間	
事後学修	「心に残る教師」についてレポートを作成し提出する。			2時間	
2. 教職の意義					
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。			2時間	
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。			2時間	
3. 『小学校教師 菊池省三の仕事』視聴					
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。			2時間	
事後学修	視聴した動画の内容についてレポートを作成し提出する。			2時間	
4. 教員養成と教員採用					
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。			2時間	
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。			2時間	

5. チームとしての学校		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。	2時間
6. 『中学教師 鹿嶋真弓の仕事』視聴		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	視聴した動画の内容についてレポートを作成し提出する。	2時間
7. 教師に必要な資質・能力		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。	2時間
8. 教師の服務内容		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。	2時間
9. 『高校教師 大瀧雅良の仕事』視聴		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	視聴した動画の内容についてレポートを作成し提出する。	2時間
10. 教師の仕事：授業-教えるということ-		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。	2時間
11. 教師の仕事：生徒指導・学級経営・危機管理		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。	2時間
12. 『管理栄養士 佐々木十美の仕事』視聴		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	視聴した動画の内容についてレポートを作成し提出する。	2時間
13. 教師の仕事：校務分掌とマネジメント		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。	2時間
14. 教師はどのように育っていくか		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	講義で学習した内容を復習し、整理する。	2時間
15. 『校長 荒瀬克己の仕事』視聴		
事前学修	予め配付される資料を読み、与えられたテーマに基づいて自分の考えをまとめておく。	2時間
事後学修	視聴した動画の内容についてレポートを作成し提出する。	2時間

教育原理				単位数		2単位			
授業コード		16010	科目ナンバリング		510Z0-2000-x2	開講年度学期		2025年度第2期	
担当者氏名		尾上 雅信							
時間割備考									
授業形態（主）		1 講義							
授業形態（副）		1 講義							
担当形態		単独							
研究分野（大学院）									
本授業の概要									
この授業では、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」について学びます。おもに歴史的・思想史的観点から、教育の本質と目的、教育についての様々な考え方や教育の対象としての子どもとのとらえ方の変遷、教育の専門的な施設としての学校の歴史と特質、専門職としての教員の歴史と現状などをとりあげ解説します。これらの事項についての基礎的な知識を獲得し、教育や学校について自ら考えるための教養を身につけることをめざします。									
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション							
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1	教育と学校、教職についての歴史を理解し、教員をめざすものとしての基礎的な知識を身につける。					知識・技能			
2	学んだ基礎知識にもとづき、教育・学校・教員などについて自ら考えることができる。					思考・判断・表現力			
3									
4									
5									
成績評価の基準						対応する到達目標の番号			
1	授業中に課す小レポート（30%）					2			
2	期末試験（70%）					1			
3									
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目									
実務経験の授業への活用方法									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間					
第1週 オリエンテーション 授業の目的、授業の概要・計画、方法などの説明									
事前学修	予習：事前に配布のプリント（オリエンテーションと次回の授業内容について）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。						2時間		
事後学修	復習：授業プリント（オリエンテーション内容）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、オリエンテーションのポイントを整理すること。						2時間		
第2週 教育の本質と目的の変遷									
事前学修	予習：事前に配布のプリント（教育の本質と目的の変遷について）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。						2時間		
事後学修	復習：授業プリント（教育の本質と目的の変遷）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。						2時間		
第3週 コメニウスの教育論と学校論									
事前学修	予習：事前に配布のプリント（コメニウスの教育論と学校論）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。						2時間		
事後学修	復習：授業プリント（コメニウスの教育論と学校論）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。						2時間		
第4週 ルソーの教育論：学びの支援としての教育									
事前学修	予習：事前に配布のプリント（ルソーの教育論：学びの支援としての教育）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。						2時間		
事後学修	復習：授業プリント（ルソーの教育論：学びの支援としての教育）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。						2時間		

第5週 ペスタロッチの教育論と教育実践		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（ペスタロッチの教育論と教育実践）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（ペスタロッチの教育論と教育実践）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第6週 ヘルバルトの教育論と学校教育		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（ヘルバルトの教育論と学校教育）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（ヘルバルトの教育論と学校教育）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第7週 デューイの教育論と新教育運動		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（デューイの教育論と新教育運動）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（デューイの教育論と新教育運動）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第8週 「学校」とは何だろう：学校の誕生から考える		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（「学校」とは何だろう：学校の誕生から考える）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（「学校」とは何だろう：学校の誕生から考える）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第9週 「教職」の誕生：「教える」職業の誕生と発展		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（「教職」の誕生：「教える」職業の誕生と発展）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（「教職」の誕生：「教える」職業の誕生と発展）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第10週 学校とその制度の発展：西洋の下構型・複線型の学校制度		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（学校とその制度の発展：西洋の下構型・複線型の学校制度）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（学校とその制度の発展：西洋の下構型・複線型の学校制度）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第11週 日本の学校制度の発達：寺子屋・藩校から「学校」へ		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（日本の学校制度の発達：寺子屋・藩校から「学校」へ）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（日本の学校制度の発達：寺子屋・藩校から「学校」へ）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第12週 戦後の教育改革と学校：現代学校制度の基本		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（戦後の教育改革と学校：現代学校制度の基本）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（戦後の教育改革と学校：現代学校制度の基本）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第13週 日本の教員養成の歴史：師匠から教員へ		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（日本の教員養成の歴史：師匠から教員へ）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（日本の教員養成の歴史：師匠から教員へ）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第14週 中等教育と教員養成：学校の発展と教員養成		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（中等教育と教員養成：学校の発展と教員養成）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（中等教育と教員養成：学校の発展と教員養成）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間
第15週 学校と教員養成：現状と課題		
事前学修	予習：事前に配布のプリント（学校と教員養成：現状と課題）をよく読んで、要点をあらかじめつかんでおくこと。	2時間
事後学修	復習：授業プリント（学校と教員養成：現状と課題）の空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理すること。	2時間

教育心理学				【単位数		2単位	
授業コード	16020	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2025年度第 1 期		
担当者氏名	鹿 嶋 達 哉						
時間割備考							
授業形態（主）	1 講義						
授業形態（副）							
担当形態	単独						
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
教育とは、人と人とのかかわりによって成り立つ営みである。かかわりの中での学びは、児童生徒の側だけに生じものではなく、教師の側でも深められている。本授業ではこうした相互的な関係性の視点から、児童生徒の心身の発達を理解し、児童生徒の学びとその過程を捉え、そしてそれを支える教師のかかわりを具体的に考えていく。こうした教師のかかわりを考えるために、発達と学習に関する理論と、その教育の場における具体的実践についての理解を深める。							
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション					
到達目標					対応するディプロマポリシー （ 1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）		
1	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。				知識・技能		
2	教育現場での実践を教育心理学の概念・理論で説明できる。				思考・判断・表現力		
3	教育心理学の概念・理論を用いて教授法・指導法を提案できる。				主体性		
4							
5							
成績評価の基準					対応する到達目標の番号		
1	毎授業時の課題 30%				1／2／3		
2	期末試験 70%				1／2		
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目							
実務経験の授業への活用方法							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間					
第 1 回：発達と教育をどう見るか							
事前学修	教科書の第1章を読んで、発達と教育の関連性を3つの視点から400字にまとめる。					2時間	
事後学修	授業の内容をふまえ、教育心理学において、発達を学ぶ意義と教育について学ぶ意義をそれぞれ400字にまとめる。					2時間	
第 2 回：児童生徒の心身の発達に関する理論：ライフサイクルの視点							
事前学修	教科書第1章を読んで、ライフサイクル論を学ぶ意義を400字にまとめる。					2時間	
事後学修	授業の内容をふまえ、学童期の特徴をライフサイクルの前半（～乳幼児期）とライフサイクル後半（青年期～）と関連づけてそれぞれ400字にまとめる。					2時間	
第 3 回：児童生徒の心身の発達(1) 乳幼児期の発達と小学校への接続							
事前学修	教科書の第2章を読んで、乳幼児期の身体的・心理的・社会的発達を0～6歳別に表にまとめる。					2時間	
事後学修	授業の内容をふまえ、乳児期の基本的信頼感、幼児期前期の自律性、遊戯期の自発性の獲得について、それぞれ200字でまとめる。					2時間	
第 4 回：児童生徒の心身の発達(2) 児童期の発達							
事前学修	教科書の第3章を読んで、学童期の身体的・心理的・社会的発達の特徴を表にまとめる。					2時間	
事後学修	授業の内容をふまえ、学校生活における、①家をでる、②教師がいる、③友だちがいる、④学ぶ意義をそれぞれ200字でまとめる。					2時間	

第5回：児童生徒の心身の発達(3) 思春期の発達		
事前学修	教科書の第4章を読んで、思春期の身体的・心理的・社会的発達の特徴を表にまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、思春期の子どもと向き合う大人（教師）に求められる子どもへの理解と関わり方について、5つの観点からまとめる。	2時間
第6回：児童生徒の心身の発達(4) 青年期と生涯発達		
事前学修	教科書の第4章を読んで、青年期の発達課題についてまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、青年期に獲得されるアイデンティティの特徴とアイデンティティ・ステイタスについて400字でまとめる。	2時間
第7回：児童生徒の学習に関する理論：個人の学びと社会的実践		
事前学修	教科書の第6章を読んで、子どもの認知過程について400字でまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、子どもの認知過程の特性に合った個別指導法における留意点を4点まとめる。	2時間
第8回：主体的学習を支える動機づけ		
事前学修	教科書の第8章を読んで、子どもの動機づけを高める要因と低める要因を整理して、表にまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、子どもの学習に対する動機づけが低くなる原因・要因を8つ挙げた上で、それぞれを低くしない方法因、高める方法をまとめる。	2時間
第9回：主体的学習を支える集団づくり		
事前学修	教科書の第10章を読んで、協同的学習の目標、特徴、効果を個人的学習と比較して、表にまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、集団での学習を効果的にするために求められる指導者の準備、指導法、配慮事項をまとめる。	2時間
第10回：主体的学習を支える学習評価とアセスメント		
事前学修	教科書の第11章を読んで、学習における3つの教育評価の種類、特徴、意義を表にまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、現在求められている学力、その学力を習得するための学習方法、その効果の評価法を関連づけてまとめる。	2時間
第11回：主体的な学習活動を支えるために：教育実践を心理学的に読み解く視点		
事前学修	教科書の第5章を読んで、行動論に基づいて教育実践を読みとく視点、学習活動を支援する方法をまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、学習理論の視点から、学習者（子ども）にとって効果的な学習法、指導者（教員）に求められる指導法をそれぞれ400字にまとめる。	2時間
第12回：児童生徒の発達と学びを支える(1) 授業分析		
事前学修	教科書の第9章を読んで、一斉授業の種類、特徴、長所、短所をまとめる。	2時間
事後学修	一斉授業の問題点を改善するために、①一斉授業内でできること、②授業という形式内でできること、③授業の形式を変えてできることをまとめる。	2時間
第13回：児童生徒の発達と学びを支える(2) 発達の多様性		
事前学修	教科書の13章を読んで、特別な支援を要する子どもの種類と特徴をまとめる。	2時間
事後学修	授業の内容をふまえ、特別な支援を要する子どもに対する教員の指導法と特別支援教育の制度について、それぞれ400字でまとめる。	2時間
第14回：児童生徒の発達と学びを支える(3) 個と集団の関係		
事前学修	教科書の第12章を読んで、子ども同士の関係、集団の特徴、教師－子ども関係、学級経営についてまとめる。	2時間
事後学修	授業のに内容をふまえ、学級経営・生徒指導と授業との有機的な関連性についてまとめる。	2時間
第15回：教育における学びと相互的な関係性		
事前学修	教科書の第14章を読んで、教育相談の必要性和重要性をまとめる。	2時間
事後学修	教科書の第15章を読んで、地域連携と学校の協力関係（チーム学校）が子どもの教育にどのように関連するかをまとめる。	2時間

試験等
16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
manaba folio に模範解答を掲載する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
主体的に学ぶ発達と教育の心理学／高村 和代／ナカニシヤ出版／2300／9784779516542／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
授業開始後に通知する
留意事項

発達心理学				単位数	2単位
授業コード	16030	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	湯澤 美紀、相原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
人間の健やかな成長・発達を生命の誕生から老年期にいたるまでの長いスパンで紐解いていく。子の育ち、また、親の育ちを冒頭で述べ、親子の絆の在り方について考えた後、幼少期の人の成長を言語・社会性・自己意識・遊びの観点から考察する。その後、成長に伴う発達課題を概観していきながら、人がより良く生きるための成長の姿を考える。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	授業を通して、心の発達のメカニズムを多面的に理解することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	自らの成長のプロセスと照らし合わせながらこれまでの人生を振り返るとともに、自らのこれからの育ちを見通しつつ、明日への成長に繋がるための実践的な学びができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中のリアクションシート(30点)			1／2	
2	中間レポート2回分（30%）			1／2	
3	最終レポート課題(40%)			1／2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
保育・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して（岡山県専門家チーム等）、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
第1回：人の育ちについて考える					
事前学修	授業の理解を支える深めるために、推薦図書一覧を授業初回時に配布する。資料に目を通し、関心のある本を3冊選び、読み進める。			2時間	
事後学修	授業に際し、「進化心理学」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第1回から5回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたてレポートと仕上げる準備を進める。			2時間	
第2回：生命の誕生					
事前学修				2時間	
事後学修	授業に際し、「生命の誕生」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第1回から5回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたてレポートと仕上げる準備を進める。			2時間	
第3回：赤ちゃんから見た世界					
事前学修				2時間	
事後学修	授業に際し、「胎児・乳児の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第1回から5回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたてレポートと仕上げる準備を進める。			2時間	
第4回：親としての育ち					
事前学修				2時間	
事後学修	授業に際し、「親性の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第1回から5回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたてレポートと仕上げる準備を進める。			2時間	

第5回：コミュニケーションと人間関係の発達		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「社会性の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第1回から5回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたてレポートと仕上げる準備を進める。	2時間
第6回：言語と遊びの発達		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「遊びの発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第6回から10回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第7回：自己の発見		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「自己意識」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第6回から10回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第8回：仲間の中での育ち		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「友人関係の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第6回から10回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第9回：発達と教育		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「認知発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第6回から10回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第10回：思春期を生きる		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「思春期の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第6回から10回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第11回：職業選択		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「思春期の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第11回から14回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第12回：関わりの中で成熟する		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「職業選択」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第11回から14回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第13回：中年期のアイデンティティ		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「壮年期の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第11回から14回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間
第14回：ライフストーリー（人生の振り返り）		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「高齢期の発達」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 第11回から14回までの授業レポート用に、資料を収集し、自らの問をたて、レポートと仕上げるための資料収集・構想・執筆を進める。	2時間

第15回：人の個性をどのように理解し、そして、ともに手と手を取りあうか		
事前学修		2時間
事後学修	授業に際し、「生涯発達心理学」に関して講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。 授業内で行われた最終レポートの振り返りをもとに、再度、レポートを修正し、最終提出する。	2時間
試験等		
最終レポート課題		
試験のフィードバックの方法		
15 週目の授業で試験の解説を行う		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
子どもも大人もぐんぐん育つ わらべうたと心理学の出会い／湯澤美紀／金子書房／2700／9784760839070／冊子版		
<必携書> わらべうたと心理学の出会い，2021, 987-4-7608-3907, 湯澤美紀，金子書房		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
子どもも大人もぐんぐん育つ わらべうたと心理学の出会い／湯澤美紀／金子書房／2700／9784760839070／冊子版		
<参考書等> 教師教育講座 第3巻 子どもの発達と教育（湯澤正通編著、協同出版） 問いからはじめる発達心理学-生涯にわたる育ちの科学 （坂上裕子他編著、有斐閣） やさしく学ぶ発達心理学-出会いと別れの心理学 （浜崎隆司・田村 隆宏編著、ナカニシヤ出版）		
オフィスアワー		
オフィスアワー 水曜日 3 時限		
連絡先		
yuzawa@m.ndsu.ac.jp		
留意事項		
1. 課題提出や連絡にはmanabaを使用します。質問等は授業中、manabaの掲示板あるいは電子メールで随時受け付けます。		

学校経営論				単位数	2単位
授業コード	16040	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	伊藤 豊美				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
新しい時代の学校経営の基本について研究するとともに、その現代的意義や課題について考える。また、討論等も取り入れながら、学校経営を取り巻く諸問題について多角的に捉えて解決への道筋を探る。					
アクティブラーニングの実施内容					
		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への取り組み度 20%			1／2／3	
2	レポート 10%			1	
3	期末試験 70%			1	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教育委員会において、管理主事の業務に携わっていた経験から、組織としての学校経営の基礎基本について具体的・多角的に取り上げ、学生たちに基本的な学校に関する法令並びに地域・児童生徒・教師の実態を考察させることを通して、学校現場における問題解決プロセスの実践的構築を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 日本の教育制度の現状並びに諸外国の教育事情と教育改革の動向					
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。			2時間	
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。			2時間	
2. 教育行政の組織と教育委員会					
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。			2時間	
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。			2時間	
3. 学校の活性化を目指す教育目標とPDCAの意義					
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。			2時間	
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。			2時間	

4. PDCAと教育課程編成の実際		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
5. 個性の伸長を図る教科指導と特別活動		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
6. 生徒指導の諸問題		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
7. 体罰の禁止と事故防止		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
8. 教員の任用・服務・研修		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
9. 学校経営の組織構成と運営（地域に開かれた学校づくりを目指して）		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
10. 社会教育と関係諸団体・機関との連携・地域社会との協働		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
11. 学校における安全管理と安全教育		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
12. 討論：いじめ問題と学校運営（チーム学校としていじめ問題に取り組む）		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジュメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジュメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間

13. 討論：各教科の指導上の課題と今後の展望		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジユメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジユメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
14. 「学校運営と人権教育」（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジユメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジユメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
15. 「人権教育の実際」（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）		
事前学修	授業の始めに毎回、学生による3分間スピーチを実施する。テーマは原則として前時に提示するので、自分の考えを3分以内でまとめておく準備が必要となる。 また、授業では毎回のテーマを事前に提示するので、講義内容に関する新聞記事を読んだり関連書籍に目を通すなど、自ら教職を目指す学生として自主的な学修に取り組むこと。	2時間
事後学修	講義終了後に十分な復習を通して毎回、講義内容をまとめるためのレジユメのプリントを配付するが、このプリントは講義を受講して初めて内容が完成するように工夫したレジユメとなっているので、講義終このプリントを毎回完成させていくこと。	2時間
試験等		
定期試験		
試験のフィードバックの方法		
後日、解答を掲示。		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
<必携書> プリント等を配付する。 <参考書> 岡東 壽隆『学校経営論 重要用語300の基礎知識』（明治図書）		
オフィスアワー		
質問等は随時受け付ける。		
連絡先		
itoh@m.ndsu.ac.jp		
留意事項		
介護等の体験に出る学年であり、来年度の教育実習に備え、学校という組織及び教職員の責務などを自覚して積極的に授業参加する。		

特別支援教育基礎論				単位数		2単位					
授業コード		16045		科目ナンバリング		510Z0-1000-x2		開講年度学期		2025年度第2期	
担当者氏名		青山 新吾									
時間割備考											
授業形態（主）		1 講義									
授業形態（副）		1 講義									
担当形態		単独									
研究分野（大学院）											
本授業の概要											
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の有する困難性、障害特性やその対応について、及び特別支援の視点を取り入れた保育、教育の現状や基礎的事項からインクルーシブ教育システムの今後について解説する。											
アクティブラーニングの実施内容											
グループ・ディスカッション											
到達目標										対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1		特別な支援を必要とする児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解して自分のことばで表現できる。								知識・技能／主体性	
2		主たる障害についての特性を理解し、それらを踏まえての実際の指導についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。								知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3		特別支援の視点を取り入れた教育についての基礎的事項を自分のことばで表現できる。								知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4											
5											
成績評価の基準										対応する到達目標の番号	
1		定期試験 50%								1／2	
2		レポート（学期中に作成及び講義後の振り返り） 50%								1／2／3	
3											
4											
5											
実務経験のある教員による授業科目										実務あり	
実務経験の授業への活用方法											
小学校教員時代に経験した実践及び、現在指導・助言の立場でかかわっている幼稚園、小・中・高等学校や特別支援学校における具体的なエピソードや最新の知見を講義中に積極的に紹介し、特別支援教育について具体的なイメージを伴って学習を進められるように展開する。											
日本語以外の言語による授業											
授業予定一覧										事前・事後学修内容と時間	
第1回：「障害」とは何か：「障害」の捉え方及び多様な実態の子ども											
事前学修		「障害」の捉え方や多様な実態の子どもに関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。								2 時間	
事後学修		「障害」の捉え方や多様な実態の子どもに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。								2 時間	
第2回：特別支援教育とは何か：特別支援教育コーディネーターを軸とする支援体制の構築											
事前学修		特別支援教育における支援体制の構築に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。								2 時間	
事後学修		特別支援教育における支援体制の構築に関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。								2 時間	
第3回：特別な支援を必要とする子どもとは（1）自閉スペクトラム症のある子どもと教育											
事前学修		自閉スペクトラム症のある子どもと教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。								2 時間	
事後学修		自閉スペクトラム症のある子どもに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。								2 時間	
第4回：特別な支援を必要とする子どもとは（2）LD、ADHDのある子どもと教育											
事前学修		LD、ADHDのある子どもと教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。								2 時間	
事後学修		LD、ADHDのある子どもに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。								2 時間	

第5回：特別な支援を必要とする子どもとは（3）言語障害、場面緘黙のある子どもと教育		
事前学修	言語障害、場面緘黙のある子どもと教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	言語障害、場面緘黙のある子どもに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第6回：特別な支援を必要とする子どもとは（4）知的障害のある子どもと教育		
事前学修	知的障害のある子どもと教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	知的障害のある子どもに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第7回：特別な支援を必要とする子どもとは（5）視覚障害、聴覚障害のある子どもと教育		
事前学修	視覚障害、聴覚障害のある子どもと教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	視覚障害、聴覚障害のある子どもに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第8回：特別な支援を必要とする子どもとは（6）病弱・身体虚弱、肢体不自由のある子どもと教育		
事前学修	病弱・身体虚弱、肢体不自由のある子どもと教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	病弱・身体虚弱、肢体不自由のある子どもに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第9回：特別支援の視点を取り入れた教育（1）小学校における取組		
事前学修	小学校における特別支援の視点を取り入れた教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	小学校における特別支援の視点を取り入れた教育に関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第10回：特別支援の視点を取り入れた教育（2）中学校、高等学校等における取組		
事前学修	中学校・高等学校における特別支援の視点を取り入れた教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	中学校・高等学校における特別支援の視点を取り入れた教育に関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第11回：特別支援の視点を取り入れた教育（3）特別支援の視点と生徒指導		
事前学修	特別支援教育と生徒指導の関係に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	特別支援教育と生徒指導の関係に関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第12回：合理的配慮の提供：当事者のお話から学ぶ		
事前学修	合理的配慮に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	合理的配慮に関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第13回：キャリア教育と特別支援教育：関係機関との連携による将来につなげるための指導の実践		
事前学修	関連機関との連携による将来につなげる教育に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	関連機関との連携による将来につなげる教育に関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間
第14回：特別支援教育における家族との協働：保護者のお話から学ぶ		
事前学修	障害のある子どもの家族との協働に関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2時間
事後学修	障害のある子どもの家族との協働に関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2時間

第15回：インクルーシブ教育システムと共生社会の構築：特別支援教育の今後 とICT活用		
事前学修	特別医専教育におけるICT活用とインクルーシブ教育システムに関連する教科書記述を熟読し、関連するネット情報にアクセスすることで、基礎的事項の理解に努める。	2 時間
事後学修	特別支援教育におけるICT活用とインクルーシブ教育システムに関連するネット情報や文献にアクセスするとともに、授業内で紹介する受講者のコメントや関連トピックについて各自で追究し、manabaのレポートフォームに自身のことばで記述することで、授業内容についての考えを拡げていく。	2 時間
試験等		
第16回目に定期試験を実施する。		
試験のフィードバックの方法		
必要に応じて、試験のポイント等についてmanabaで情報を提供する。また、個人的な質問等にはメール等で情報を提供する。		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
特別支援教育／汐見 稔幸／ミネルヴァ書房／2000／9784623085378／冊子版		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
<参考書> 『インクルーシブ教育ってどんな教育？』 青山新吾他編著 学事出版 『特別支援教育すきまスキル 高等学校編』 青山新吾・堀裕嗣編著 明治図書		
オフィスアワー		
講義中に指示する。質問、相談は、Eメール等で随時受け付ける。		
連絡先		
saoyama@m.ndsu.ac.jp		
留意事項		

教育課程論					単位数	2単位
授業コード	16050	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2025年度第1期	
担当者氏名	小橋 雅彦					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
学習指導要領・総則編を基に、小学校・中学校・高等学校における教育課程の意義及び編成の方法を理解し、教育課程を理論的・実践的な面から検討、考察する。また、学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と評価の考え方を理解する。教育技術としてのICT活用法と留意事項、及び効果的な教育活動の展開について研究する。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	1. 学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。				知識・技能／主体性	
2	2. 理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	3. 教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	4. ICTの活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	・授業への取り組み度（20％）				1／2／3／4	
2	・課題レポート（20％）				1／2／3／4	
3	・定期試験（60％）				1／2／3／4	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において学校教育に携わっていた経験から、中等教育における諸課題を具体的に把握しており、教育課程の意義及び編成の方法の指導に活かすことができる。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間			
1 オリエンテーション、教育課程の意義						
事前学修	学習指導要領の目次とその内容に目を通し、どのような構成になっているかを理解する。				2時間	
事後学修	講義で学修した学習指導要領の構成について、改めて学習指導要領に触れ理解を深める。				2時間	
2 教育課程に関する関係法規						
事前学修	学習指導要領の「教育課程に関する関係法規」について述べられている部分を読んでおく。				2時間	
事後学修	講義で学修した「教育課程に関する関係法規」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。				2時間	
3 学習指導要領改訂の歴史（戦後の試案から経済成長期まで）						
事前学修	学習指導要領の「学習指導要領改訂の歴史」について述べられている部分を読んでおく。				2時間	
事後学修	講義で学修した「学習指導要領改訂の歴史」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。				2時間	
4 学習指導要領改訂の歴史（ゆとり教育から平成20年まで）						
事前学修	学習指導要領の「学習指導要領改訂の歴史」について述べられている部分を読んでおく。				2時間	
事後学修	講義で学修した「学習指導要領改訂の歴史」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。				2時間	

5 新学習指導要領の特徴（小学校・中学校）		
事前学修	学習指導要領の「新学習指導要領の特徴」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「新学習指導要領の特徴」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
6 新学習指導要領の特徴（高等学校）		
事前学修	学習指導要領の「新学習指導要領の特徴」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「新学習指導要領の特徴」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
7 教育課程の役割と機能		
事前学修	学習指導要領の「教育課程の役割と機能」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程の役割と機能」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
8 教育課程編成の基本原則		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成の基本原則」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成の基本原則」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
9 教育課程編成の実践（小学校・中学校）		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成の実践」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成の実践」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
10 教育課程編成の実践（高等学校）		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成の実践」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成の実践」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
11 教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
12 カリキュラム・マネジメントの意義と評価		
事前学修	学習指導要領の「カリキュラム・マネジメントの意義と評価」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「カリキュラム・マネジメントの意義と評価」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
13 ICT 教育の実践と課題		
事前学修	学習指導要領の「ICT 教育の実践と課題」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「ICT 教育の実践と課題」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
14 教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方		
事前学修	学習指導要領の「教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
15 特別活動の内容と指導法		
事前学修	学習指導要領の「特別活動の内容と指導法」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「特別活動の内容と指導法」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間

試験等
16 週目に筆記試験を行う。内容は学習指導要領総則編を基にして獲得した知識・技能など総合的なもの。
試験のフィードバックの方法
試験終了後にGoogle Classroomで解答例を配信する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中学校学習指導要領解説 総則編／文部科学省／東山書房／279／9784827815801／冊子版
高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年告示）／文部科学省／東洋館出版社／380／9784491036397／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
毎回の授業でプリントを配付する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
総則を中心とした学習指導要領解説を熟読し、毎回、自分なりの課題をもって授業に臨むなど、積極的な授業参加を期待します。なお、現代の教育動向や教育課題に関心を持つよう心がけること。具体的には、教育をテーマとした教育記事を読み、各自のコメントをGoogle Formsで提出を求めることがある。普段から教育問題に関心を持ち、意見が言えるような取り組みが日常的に期待される。

教育課程論				単位数	2単位
授業コード	16055	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
学習指導要領・総則編を基に、小学校・中学校・高等学校における教育課程の意義及び編成の方法を理解し、教育課程を理論的・実践的な面から検討、考察する。また、学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と評価の考え方を理解する。教育技術としての I C T 活用法と留意事項、及び効果的な教育活動の展開について研究する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1. 学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。			知識・技能／主体性	
2	2. 理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	3. 教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	4. I C T の活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・授業への取り組み度（20％）			1／2／3／4	
2	・課題レポート（20％）			1／2／3／4	
3	・定期試験（60％）			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において学校教育に携わっていた経験から、中等教育における諸課題を具体的に把握しており、教育課程の意義及び編成の方法の指導に活かすことができる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 オリエンテーション、教育課程の意義					
事前学修	学習指導要領の目次とその内容に目を通し、どのような構成になっているかを理解する。			2時間	
事後学修	講義で学修した学習指導要領の構成について、改めて学習指導要領に触れ理解を深める。			2時間	
2 教育課程に関する関係法規					
事前学修	学習指導要領の「教育課程に関する関係法規」について述べられている部分を読んでおく。			2時間	
事後学修	講義で学修した「教育課程に関する関係法規」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。			2時間	
3 学習指導要領改訂の歴史（戦後の試案から経済成長期まで）					
事前学修	学習指導要領の「学習指導要領改訂の歴史」について述べられている部分を読んでおく。			2時間	
事後学修	講義で学修した「学習指導要領改訂の歴史」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。			2時間	
4 学習指導要領改訂の歴史（ゆとり教育から平成20年まで）					
事前学修	学習指導要領の「学習指導要領改訂の歴史」について述べられている部分を読んでおく。			2時間	
事後学修	講義で学修した「学習指導要領改訂の歴史」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。			2時間	

5 新学習指導要領の特徴（小学校・中学校）		
事前学修	学習指導要領の「新学習指導要領の特徴」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「新学習指導要領の特徴」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
6 新学習指導要領の特徴（高等学校）		
事前学修	学習指導要領の「新学習指導要領の特徴」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「新学習指導要領の特徴」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
7 教育課程の役割と機能		
事前学修	学習指導要領の「教育課程の役割と機能」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程の役割と機能」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
8 教育課程編成の基本原則		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成の基本原則」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成の基本原則」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
9 教育課程編成の実践（小学校・中学校）		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成の実践」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成の実践」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
10 教育課程編成の実践（高等学校）		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成の実践」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成の実践」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
11 教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討		
事前学修	学習指導要領の「教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
12 カリキュラム・マネジメントの意義と評価		
事前学修	学習指導要領の「カリキュラム・マネジメントの意義と評価」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「カリキュラム・マネジメントの意義と評価」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
13 ICT 教育の実践と課題		
事前学修	学習指導要領の「ICT 教育の実践と課題」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「ICT 教育の実践と課題」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
14 教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方		
事前学修	学習指導要領の「教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間
15 特別活動の内容と指導法		
事前学修	学習指導要領の「特別活動の内容と指導法」について述べられている部分を読んでおく。	2時間
事後学修	講義で学修した「特別活動の内容と指導法」について、再度学習指導要領を読み直すとともに、このことに関して出題された教員採用試験の過去問を解いて理解を深める。	2時間

試験等
16 週目に筆記試験を行う。内容は学習指導要領総則編を基にして獲得した知識・技能など総合的なもの。
試験のフィードバックの方法
試験終了後にGoogle Classroomで解答例を配信する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中学校学習指導要領解説 総則編／文部科学省／東山書房／279／9784827815801／冊子版
高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年告示）／文部科学省／東洋館出版社／380／9784491036397／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
毎回の授業でプリントを配付する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
総則を中心とした学習指導要領解説を熟読し、毎回、自分なりの課題をもって授業に臨むなど、積極的な授業参加を期待します。なお、現代の教育動向や教育課題に関心を持つよう心がけること。具体的には、教育をテーマとした教育記事を読み、各自のコメントをGoogle Formsで提出を求めることがある。普段から教育問題に関心を持ち、意見が言えるような取り組みが日常的に期待される。

英語科教育法A				【単位数		2単位			
授業コード		16056	科目ナンバリング		510Z0-2000-x2	開講年度学期		2025年度第2期	
担当者氏名		馬本 勉							
時間割備考									
授業形態（主）		1 講義							
授業形態（副）									
担当形態		単独							
研究分野（大学院）									
本授業の概要									
小・中・高等学校の学習指導要領、本授業のテキスト及び英語の検定教科書を含む各種資料の講読を踏まえ、ディスカッションやプレゼンテーションを中心としたアクティブ・ラーニング型の授業を行う。授業を通じて中学校及び高等学校における英語の学習・指導に関する諸理論の理解を深めるとともに、授業実践に必要なとなる言語の諸要素や文化的側面、生徒理解に基づく指導・評価の技術など、英語教員に必要とされる知識と技能の獲得を目指す。									
アクティブラーニングの実施内容				グループ・ディスカッション					
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1	中学校及び高等学校における英語科教育の目標、内容等について十分理解する。						知識・技能		
2	英語学習・指導・評価に関する理論・知識と、授業実践のための技能を身に付ける。						知識・技能		
3									
4									
5									
成績評価の基準						対応する到達目標の番号			
1	定期試験および期末レポート 40%						1		
2	提出課題やプレゼンテーションを含む授業への参加度 60%						2		
3									
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目				実務あり					
実務経験の授業への活用方法									
中・高等学校における英語教員としての経験を踏まえ、生徒の発達段階に応じた授業展開や個別支援の在り方について、履修学生の実践力向上を促す。									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間					
第1回：日本における英語の変遷と必要性を理解し、グローバル社会の中での位置づけを考える。									
事前学修	教科書第2章「日本社会における英語：その歴史と必要性」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。						2時間		
事後学修							2時間		
第2回：英語科教育における小・中・高等学校の連携について理解する。									
事前学修	教科書第3章「日本の外国語教育：育成すべき英語力とは」（特に第2～6節）を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。						2時間		
事後学修							2時間		
第3回：育成すべきコミュニケーション能力と異文化間コミュニケーションのあり方を理解する。									
事前学修	教科書第4章「コミュニケーション能力：育成すべき資質・能力」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。						2時間		
事後学修							2時間		
第4回：育成すべき英語力とは何かを把握し、学力の三要素との関係を整理する。									
事前学修	教科書第3章「日本の外国語教育：育成すべき英語力とは」（特に第1節）を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。						2時間		
事後学修							2時間		

第5回：CEFRとCAN-DOの重要性を理解し、どのような英語を学び教えるかを考察する。		
事前学修	教科書第1章「英語という言語の特質：どのような英語を学び教えるのか」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第6回：第二言語習得のプロセスを踏まえた教室内でのアプローチを理解する。		
事前学修	教科書第5章「英語学習の共通性：第二言語習得のプロセス」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第7回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因として、言語適性を理解する。		
事前学修	教科書第6章「言語適性：英語学習の多様性に影響を与える認知要因」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第8回：英語学習の多様性に影響を与える情意要因として、動機付けを理解する。		
事前学修	教科書第7章「動機づけ：英語学習の多様性に影響を与える情意要因」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第9回：英語学習の多様性に影響を与える行動要因として、学習方略を理解する。		
事前学修	教科書8章「学習方略：英語学習の多様性に影響を与える行動要因」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第10回：目標に基づく指導と学習評価のあり方・進め方を理解する。		
事前学修	教科書第9章「学習評価のあり方：目標に基づく指導と評価の一体化の実現のために」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第11回：小学校の指導と評価方法について、学習指導要領と教科書に即して考察する。		
事前学修	教科書第10章「小学校の指導と評価」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第12回：中学校の指導と評価方法について、学習指導要領と教科書に即して考察する。		
事前学修	教科書第11章「中学校の指導と評価」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第13回：高等学校の指導と評価について、学習指導要領と教科書に即して考察する。		
事前学修	教科書第12章「高等学校の指導と評価」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第14回：教室英語を用いたインタラクションの実践方法を理解する。		
事前学修	教科書第13章「英語教師としての成長」（特に第1節）を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間
第15回：他の教員やALTとの協働やICTの活用による授業改善を考える。		
事前学修	教科書第13章「英語教師としての成長」（特に第2～3節）および第11章第1節（1.3.（4））「ALTとのチーム・ティーチング」・第12章第2節「ICT教材の活用」を熟読し、その要点と疑問点をまとめておくこと。	2時間
事後学修		2時間

試験等
16週目に筆記試験を行う。 授業最終回に課されたレポートを期日までに提出する。
試験のフィードバックの方法
試験終了時に模範解答の解説を行う。 レポートにはコメントを付けて返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法／酒井英樹／編著 廣森友人／編著 吉田達弘／編著 亘理陽一／〔ほか〕著／大修館書店／2400／9784469246223／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
『小学校学習指導要領』（2017, 文部科学省） https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf
『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（2017, 文部科学省） https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf
『中学校学習指導要領』（2017, 文部科学省） https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf
『中学校学習指導要領解説 外国語編』（2017, 文部科学省） https://www.mext.go.jp/content/20210531-mxt_kyoiku01-100002608_010.pdf
『高等学校学習指導要領』（2018, 文部科学省） https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf
『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（2018, 文部科学省） https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf
オフィスアワー
質問等は随時メールで受け付ける（アドレスは初回授業で提示する）。
連絡先
tsumamoto@gmail.com
留意事項

情報科教育法Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	16058	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	大西 洋、高橋 信幸				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、高等学校情報科の教員免許状を取得する上で必要な、情報科に関する基礎知識や教科の構造について学ぶ。本授業で扱う主な教科内容は、「情報社会の進展と情報技術」や「情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築」からなる、問題解決の分野である。情報科の内容を多面的な視座で捉えられるよう、ディスカッションを交えながら、情報科で扱う基礎概念の学術的な理解や、他教科や他校種との関連を含む広い視点を習得する。また、探究活動との関係性や授業における情報通信技術の活用を意識しながら、各単元の内容や要点を理解する。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	情報科の構造を踏まえて各単元の授業を提案できる			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や主体性を涵養する授業を提案できる			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	身の回りの問題を情報科における問題解決の素材として扱う授業を提案できる			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業内での演習課題（30%）			2／3	
2	レポート（70%）			1／2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
高等学校で情報科の授業を担当した経験を活かし、高校での授業で使用した教材を提示してその意図を説明することで、情報科の教科教育に関する実践的で深い授業設計能力を涵養する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 情報教育と情報科の基礎(基礎事項・構造・歴史)・科目の概要（大西）					
事前学修	本シラバスと必携書1-1, 1-2, 2-1, 2-2を読み、本科目と情報科の概要を確認する。			120分	
事後学修	授業スライドを復習し、情報科の目標・構造を整理する。			120分	
2. 情報科の指導における情報通信技術の活用（大西）					
事前学修	必携書8章を読んだ上で、情報科におけるICT活用の事例を調べる。			120分	
事後学修	ICT活用に関する指導上の各自の課題を理解し、改善する。			120分	
3. 情報科と他教科・他校種の関係（高橋）					
事前学修	必携書1-3, 2-3を読んだ上で、情報科と他教科・他校種の関係を整理する。			120分	
事後学修	他教科・他校種の学習指導要領などを調べ、情報科に関連する事項が扱われている箇所を確認する。			120分	
4. 情報科と大学入試・資格制度（大西）					
事前学修	大学入学共通テスト「情報Ⅰ」の問題を解いて自己採点した上で、受験指導上の各自の課題を理解する。			120分	
事後学修	大学入学共通テストを想定した小問を作成し、評価方法への理解を深める。			120分	

5. 共通教科「情報」と専門教科「情報」（大西）		
事前学修	必携書第3章・第4章を読んだ上で、共通教科「情報」と専門教科「情報」の関係を整理する。	120分
事後学修	「情報II」や専門教科情報を指導する上での各自の課題を理解し、関連事項の理解を深める。	120分
6. 情報教育の基礎概念(1)：情報・表現・内容（大西）		
事前学修	授業で提示する補助資料(Webテキスト)の2章・3章を読み、概念間の関係性を整理する。	120分
事後学修	情報科で扱う各種の事項を内容と表現の対応関係で整理する。	120分
7. シラバス/年間計画/学習指導案の構造・指導と評価の一体化（大西）		
事前学修	必携書第5章・第6章を読んだ上で、学習指導案の構造を理解する。	120分
事後学修	学習指導案の項目を意識して模擬授業を設計する	120分
8. 情報教育の基礎概念(2)：問題と問題解決（大西）		
事前学修	授業で提示する補助資料(Webテキスト)の6章を読み、問題解決の基本事項を整理する。	120分
事後学修	思考の発散と収束について理解した上で、水平思考やアブダクションの事例を学ぶ。	120分
9. 「情報社会の問題解決」の指導(1)：「問題を発見・解決する方法」（大西）		
事前学修	必携書7-1を読んだ上で、「問題を発見・解決する方法」の授業事例を調べる。	120分
事後学修	模擬授業を実施・受講して感じた、「問題を発見・解決する方法」を指導する上での各自の課題を改善する。	120分
10. 「情報社会の問題解決」の指導(2)：「情報社会における個人の果たす役割と責任」（情報法）（大西）		
事前学修	必携書7-2を読んだ上で、情報法の授業事例を調べる。	120分
事後学修	模擬授業を実施・受講して感じた、情報法を指導する上での各自の課題を改善する。	120分
11. 「情報社会の問題解決」の指導(3)：「情報社会における個人の果たす役割と責任」（セキュリティ）（大西）		
事前学修	必携書7-7を読んだ上で、情報セキュリティの授業事例を調べる。	120分
事後学修	模擬授業を実施・受講して感じた、情報セキュリティを指導する上での各自の課題を改善する。	120分
12. 「情報社会の問題解決」の指導(4)：「情報社会における個人の果たす役割と責任」（情報モラル）（大西）		
事前学修	必携書7-2を読んだ上で、情報モラルの授業事例を調べる。	120分
事後学修	模擬授業を実施・受講して感じた、情報モラルを指導する上での各自の課題を改善する。	120分
13. 「情報社会の進展と情報技術」の指導（「情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築」を含む）（大西）		
事前学修	「情報II」教員研修用教材第1章を読んだ上で、関連する授業事例を調べる。	120分
事後学修	「情報社会の進展と情報技術」・「情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築」を指導する上での各自の課題を理解し、関連事項の理解を深める。	120分
14. 情報教育の基礎概念(3)：コミュニケーション（大西）		
事前学修	授業で提示する補助資料(Webテキスト)の4章を読み、コミュニケーションのモデルを整理する。	120分
事後学修	コミュニケーションの具体的な事例を授業で扱ったモデルで整理する。	120分
15. 情報教育の基礎概念(4)：メディア（大西）		
事前学修	授業で提示する補助資料(Webテキスト)の5章を読み、メディアの分類を整理する。	120分
事後学修	メディアによりコミュニケーションが成り立つ/成り立たない具体的な事例を授業で扱った分類を元に考察する。	120分

試験等
授業内での演習課題と、簡易版の学習指導案(細案・略案)を含むレポート課題を課す。
試験のフィードバックの方法
レポート課題や演習課題について、締切の翌週の授業などで解説を行う。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
情報科教育法／鹿野利春／実教出版／2400／9784407355215／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
高等学校学習指導要領／文部科学省／東山書房／758／9784827815672／冊子版
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編／開隆堂出版／9784304021633／冊子版
上記2つの書籍(学習指導要領とその解説)は、いずれも必携書ではありません。Web上で下記のURLからも参照可能です。
<参考書等> 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』，2018年，ISBN 978-4827815672，文部科学省，東山書房 (https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf) 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』，2019年，ISBN 978-4304021633，文部科学省，開隆堂 (https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf) 『高等学校情報科「情報I」教員研修用教材』，2020年，文部科学省 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html) 『高等学校情報科「情報II」教員研修用教材』，2020年，文部科学省 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00018.html) 各自が高校在学中に使用した情報科の教科書を保管していれば、授業に持参するとよい
オフィスアワー
大西：火曜1～3限。対面以外にTeamsや電子メールでも対応可能です。 高橋：質問は授業後、または電子メールで受け付けます。
連絡先
大西：TeamsでのDM、または ohnishi@m.ndsu.ac.jp 高橋： n-takahashi@ous.ac.jp
留意事項
1. 授業時に各種のWebサイトを参照します。インターネットに接続できるPCを持参してください。 2. 本授業は「情報科教育法II」「情報科指導法演習I, II」の前提となる科目のため、これらの科目より先に履修することを原則とします。

英語科指導法演習Ⅰ			単位数	2単位	
授業コード	16060	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
演習を通して英語科指導法に関する専門的な知識や方法・技術を習得する。 模擬授業・研究会の授業のおもな流れは以下のとおりである。 ①学習指導案の作成 ②模擬授業の実践 ③観察班からのフィードバック ④担当教員による指導助言 ⑤授業者の振り返り					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）		
1	4年次における教育実習を見据え、学校現場に必要な指導技術を習得し、実践することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	講義への取り組み度（20%）			1	
2	模擬授業実践力（40%）			1	
3	レポート（40%）			1	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において英語教育に携わっていた経験から、英語科教育における課題を実践面から具体的に把握しており、指導法の教授においては理論的なアプローチのみならず実践的なアプローチの面からも行うことができる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 英語科指導案の作成（単元目標）					
事前学修	単元目標をグループで計画・立案する。			120分	
事後学修	グループで計画・立案した単元目標を授業で指導を受けた点を反映し、加筆修正する。			120分	
2. 英語科指導案の作成（単元計画）					
事前学修	単元目標に基づいて、単元計画をグループで計画・立案する。			120分	
事後学修	グループで計画・立案した単元計画を授業で指導を受けた点を反映し、加筆修正する。			120分	
3. 英語科指導案の作成（単元計画）					
事前学修	単元目標に基づいて、単元計画までをグループで計画・立案する。			120分	
事後学修	グループで計画・立案した単元計画を授業で指摘された点を反映し、加筆修正する。			120分	
4. 英語科指導案の作成（本時案）					
事前学修	単元目標・単元計画・評価計画に基づいて、本時案を各自で作成する。			120分	
事後学修	各自で作成した本時案について、授業で指摘を受けた箇所を振り返り、修正する。			120分	

5. 英語科指導案の作成（ICT等の活用）		
事前学修	作成した本時案について、ICTの活用を図る部分を検討し、本時案に反映する。	120分
事後学修	ICTの活用を反映した本時案について、授業で学習した内容を振り返り本時案を修正する。	120分
6. 模擬授業・研究会（中学校１年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
7. 模擬授業・研究会（中学校２年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
8. 模擬授業・研究会（中学校３年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
9. 模擬授業・研究会（中学校・総括）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
10. 模擬授業・研究会（高等学校１年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
11. 模擬授業・研究会（高等学校２年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
12. 模擬授業・研究会（高等学校３年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
13. 模擬授業・研究会（高等学校・総括）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
14. 教育相談と教科教育		
事前学修	指定される参考資料を事前に読み、書かれている内容を整理し、予め示されるディスカッション・ポイントについて自分の考えをまとめる。	120分
事後学修	授業で議論した内容について、レポートを作成する。	120分
15. 教育実習に向けて		
事前学修	当該授業における学習指導案の作成過程や模擬授業の実践を振り返り、教育実習に向けた課題を各自で整理する。	120分
事後学修	各自の課題について、授業で得た新たな気づきを基に、作成した学習指導案を多角的に検討し精査する。	120分

試験等
学習指導案やレポートの提出
試験のフィードバックの方法
提出された学習指導案等については、コメントをつけてフィードバックをGoogle Classroomから配信する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-外国語編-』開隆堂 文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説-外国語編 英語編-』開隆堂 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』東洋館出版社 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語』東洋館出版社 ※その他プリント等を必要に応じて配付する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語科指導法演習ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	16070	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態（主）					
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
演習を通して英語科指導法に関する専門的な知識や方法・技術を習得する。 模擬授業・研究会の授業のおもな流れは以下のとおりである。 ①学習指導案の作成 ②模擬授業の実践 ③観察班からのフィードバック ④担当教員による指導助言 ⑤授業者の振り返り					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	4年次における教育実習を見据え、学校現場に必要な指導技術を習得し、実践することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への取り組み度（20%）				
2	模擬授業実践力（40%）				
3	レポート（40%）				
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において英語教育に携わっていた経験から、英語科教育における課題を実践面から具体的に把握しており、指導法の教授においては理論的なアプローチのみならず実践的なアプローチの面からも行うことができる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 英語科指導案の作成（単元目標）					
事前学修	単元目標をグループで計画・立案する。				120分
事後学修	グループで計画・立案した単元目標を授業で指導を受けた点を反映し、加筆修正する。				120分
2. 英語科指導案の作成（単元計画）					
事前学修	単元目標に基づいて、単元計画をグループで計画・立案する。				120分
事後学修	グループで計画・立案した単元計画を授業で指導を受けた点を反映し、加筆修正する。				120分
3. 英語科指導案の作成（単元計画）					
事前学修	単元目標に基づいて、単元計画までをグループで計画・立案する。				120分
事後学修	グループで計画・立案した単元計画を授業で指摘された点を反映し、加筆修正する。				120分
4. 英語科指導案の作成（本時案）					
事前学修	単元目標・単元計画・評価計画に基づいて、本時案を各自で作成する。				120分
事後学修	各自で作成した本時案について、授業で指摘を受けた箇所を振り返り、修正する。				120分

5. 英語科指導案の作成（ICT等の活用）		
事前学修	作成した本時案について、ICTの活用を図る部分を検討し、本時案に反映する。	120分
事後学修	ICTの活用を反映した本時案について、授業で学習した内容を振り返り本時案を修正する。	120分
6. 模擬授業・研究会（中学校１年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
7. 模擬授業・研究会（中学校２年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
8. 模擬授業・研究会（中学校３年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
9. 模擬授業・研究会（中学校・総括）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
10. 模擬授業・研究会（高等学校１年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
11. 模擬授業・研究会（高等学校２年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
12. 模擬授業・研究会（高等学校３年）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
13. 模擬授業・研究会（高等学校・総括）		
事前学修	実践する模擬授業の準備をグループ内で協力して行い、模擬授業に向けた入念なりハーサルを行う。	120分
事後学修	模擬授業後は、観察班や指導教員からのコメントを参考にして、指示される「振り返りの視点」を中心にレポート形式にまとめる。	120分
14. 教育相談と教科教育		
事前学修	指定される参考資料を事前に読み、書かれている内容を整理し、予め示されるディスカッション・ポイントについて自分の考えをまとめる。	120分
事後学修	授業で議論した内容について、レポートを作成する。	120分
15. 教育実習に向けて		
事前学修	当該授業における学習指導案の作成過程や模擬授業の実践を振り返り、教育実習に向けた課題を各自で整理する。	120分
事後学修	各自の課題について、授業で得た新たな気づきを基に、作成した学習指導案を多角的に検討し精査する。	120分

試験等
学習指導案やレポートの提出
試験のフィードバックの方法
提出された学習指導案等については、コメントをつけてフィードバックをGoogle Classroomから配信する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説-外国語編-』開隆堂 文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説-外国語編 英語編-』開隆堂 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』東洋館出版社 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語』東洋館出版社 ※その他プリント等を必要に応じて配付する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項

国語科指導法演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	16080	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標及び内容を踏まえ、学習者を想定して、中学校・高等学校の教材を取り上げて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う実践的な能力を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容等を踏まえ、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を通して、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う実践的な能力を身につける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	単元構想力・実践的指導力 （30%）				1
2	提出課題・レポート （40%）				1
3	テスト （30%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、学習指導要領を踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う実践的な方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 提出課題を整えて講義に持参すること。				2時間
事後学修	自らが授業を実施することを想定して、授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。				2時間
2 中学校における国語教室の実際					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、自らが授業を実施することを想定して、当日の模擬授業に臨むこと。				2時間
事後学修	模擬授業の実施に当たって学び得たことを記述し、レポートを提出すること。 自らが授業を実施することを想定して、授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。				2時間
3 高等学校における国語教室の実際					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、自らが授業を実施することを想定して、当日の模擬授業に臨むこと。				2時間
事後学修	模擬授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 自らが授業を実施することを想定して、授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。				2時間
4 国語科における学習評価の実際					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、自らが授業を実施することを想定して、当日の模擬授業に臨むこと。				2時間
事後学修	模擬授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 自らが授業を実施することを想定して、授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。				2時間

5 学校図書館、ＩＣＴを活用した学習指導の実際		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、自らが授業を実施することを想定して、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	模擬授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 自らが授業を実施することを想定して、授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
6 指導計画の作成、内容の取り扱い、指導上の留意点、教材についての配慮事項、テスト(1)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して小テスト及び講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、自らが授業を実施することを想定して、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	模擬授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 自らが授業を実施することを想定して、授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
7 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(1) (〔知識及び技能〕言葉の特徴や使い方に関する事項)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
8 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(2) (〔知識及び技能〕情報の扱い方に関する事項)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
9 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(3) (〔知識及び技能〕我が国の言語文化に関する事項)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
10 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(4) (〔思考力、判断力、表現力等〕「話すこと・聞くこと」)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
11 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(5) (〔思考力、判断力、表現力等〕「書くこと」)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
12 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(6) (〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」説明的文章)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
13 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(7) (〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」文学的文章)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
14 模擬授業全体を通した振り返りによる授業改善の視点、テスト(2)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して小テスト及び講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	模擬授業全体を通して授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間

15 国語科教育における実践研究の動向		
事前学修	これまでの学び及び国語科教育における実践研究の動向について自らの考えを整理して講義に臨むこと。 学習記録を整えて講義に持参すること。	2時間
事後学修	実践研究の動向を踏まえ、模擬授業全体を通して授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。	2時間
試験等		
テスト、課題レポート・学習記録の提出		
試験のフィードバックの方法		
テスト、課題レポート・学習記録について講義の中でコメントする。		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
新編教えるということ／大村はま／著／筑摩書房／800／9784480082879／冊子版		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
<必携書> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』，2018年，ISBN978-4-491-03470-6，文部科学省，東洋館出版社 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』，2019年，ISBN978-4-491-03640-3，文部科学省，東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校国語』，2020年，ISBN978-4-491-04132-2，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』，2021年，ISBN978-4-491-047003，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社 中学校国語科用教科書及び高等学校国語科用教科書 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』，2019年，ISBN4-480-08146-1，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社 『中学校国語科学習指導の創造』，2018年，ISBN978-4-86327-424-2，伊木洋，溪水社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造Ⅵ中学校編』，2010年，ISBN978-4-491-02596-4，日本国語教育学会監修，東洋館出版社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造Ⅶ高等学校編』，2010年，ISBN978-4-491-02597-1，日本国語教育学会監修，東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』，大村はま，筑摩書房 『大村はま国語教室 全15巻別巻1 巻別内容総覧』，2013年，ISBN978-4-86327-226-2，橋本暢夫編，溪水社		
オフィスアワー		
オフィスアワー：月曜日5限。随時メールで受け付ける。		
連絡先		
higi@m.ndsu.ac.jp		
留意事項		
教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 学習指導案を十分練って、模擬授業に臨むこと。 講義の中でPCを使用することがある。ノートPCを持参すること。 毎時間の自己評価を記述し、提出すること。 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。 学びのすべてを国語学習記録に整理し、提出すること。		

国語科指導法演習ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	16090	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標及び内容を踏まえ、中学校・高等学校の系統性を意識し、学習者を想定して、中学校・高等学校の教材を取り上げて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う実践的な方法を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容等を踏まえ、中学校・高等学校の系統性を意識し、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を通して、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う実践的な能力を身につける。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	単元構想力・実践的指導力 （30%）				1
2	提出課題・レポート （40%）				1
3	テスト （30%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、学習指導要領を踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う実践的な方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容、学習評価、指導上の留意点					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 提出課題を整えて講義に持参すること。				2時間
事後学修	自らが授業を実施することを想定して、授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。				2時間
2 学校図書館、ICTを活用した主体的な学習指導の実践					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	自らが授業を実施することを想定して、授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。				2時間
3 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(1) (中学校〔知識及び技能〕言葉の特徴や使い方に関する事項)					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。				2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。				2時間
4 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施、振り返り、授業改善の視点(2) (中学校〔知識及び技能〕情報の扱い方に関する事項)					
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、学習材の研究を十分に行ったうえで、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう、これまでの学びを整理して講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって、事前に学習指導案を提出し、事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで、当日の模擬授業に臨むこと。				2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード、事後レポート、国語学習記録等を記述し、学び得たことを蓄積すること。				2時間

14 教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施，振り返り，授業改善の視点(12) (高等学校〔思考力，判断力，表現力等〕「読むこと」)，テスト(2)		
事前学修	学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し，学習材の研究を十分に行ったうえで，目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ，指導と評価の充実を図った学習指導案を作成できるよう，これまでの学びを整理して小テスト及び講義に臨むこと。 模擬授業の実施に当たって，事前に学習指導案を提出し，事前指導を受けて学習指導案を練り直したうえで，当日の模擬授業に臨むこと。	2時間
事後学修	授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード，事後レポート，国語学習記録等を記述し，学び得たことを蓄積すること。	2時間
15 模擬授業全体を通した振り返りによる授業改善の視点，国語科教育における実践研究の動向		
事前学修	これまでの学び及び実践研究の動向を踏まえ，国語科教育における授業改善について自らの考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	実践研究の動向を踏まえ，模擬授業全体を通して授業の実施に当たって学び得たことを記述し提出すること。 授業コメントカード，事後レポート，国語学習記録等を記述し，学び得たことを蓄積すること。	2時間
試験等		
テスト，課題レポート・学習記録の提出		
試験のフィードバックの方法		
テスト，課題レポート・学習記録について講義の中でコメントする。		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
新編教室をいきいきと 1／大村はま／著／筑摩書房／1000／9784480081469／冊子版		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
<必携書> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』，2018年，ISBN978-4-491-03470-6，文部科学省，東洋館出版社 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』，2019年，ISBN978-4-491-03640-3，文部科学省，東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校国語』，2020年，ISBN978-4-491-0413202，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』，2021年，ISBN978-4-491-047003，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社 中学校国語科用教科書及び高等学校国語科用教科書 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』，2019年，ISBN978-4-491-03767-7，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社 『中学校国語科学習指導の創造』，2018年，ISBN978-4-86327-424-2，伊木洋，溪水社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造 VI 中学校編』，2010年，ISBN978-4-491-02596-4，日本国語教育学会監修，東洋館出版社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造 VII 高等学校編』，2010年，ISBN978-4-491-02597-1，日本国語教育学会監修，東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』，大村はま，筑摩書房 『大村はま国語教室 全15巻別巻1 巻別内容総覧』，2013年，ISBN978-4-86327-226-2，橋本暢夫編，溪水社		
オフィスアワー		
オフィスアワー：月曜日5限。随時メールで受け付ける。		
連絡先		
higi@m.ndsu.ac.jp		
留意事項		
教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 学習指導案を十分練って，模擬授業に臨むこと。 講義の中でPCを使用することがある。ノートPCを持参すること。 模擬授業終了後は，自分の授業を分析し，事後レポートを作成すること。 毎時間の自己評価を記述し，提出すること。 課題への取り組みを充実させ，期限を厳守して提出すること。 学びのすべてを国語学習記録に整理し，提出すること。		

社会科指導法演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	16100	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
「社会・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ」及び「社会・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」で学んだ各教科教育の指導理論に基づき、具体的な授業場面を想定した実践的指導法を学ぶ。また、指導と一体化した様々な評価手法についても研究する。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	中学校社会科及び高等学校地歴科・公民科の学習指導に関する専門的知識や技術を習得し、表現できる。				
2	模擬授業を通して中・高の生徒に対して適切な指導を行う基礎的な技能が獲得できる。				
3	指導と一体化に必要な評価の基礎的技法を習得し、表現できる。				
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 30%				1/2/3
2	模擬授業実践力 40%				1/2/3
3	課題レポート 30%				1/2/3
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高等学校での指導経験を通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 社会科及び地理歴史科・公民科における学習指導の特徴					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間
2 実習授業の準備と進め方（中学校社会科）					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間
3 実習授業の準備と進め方（高校地歴・公民科）					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間
4 学習指導と評価					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間

5 社会科、地理歴史科、公民科教育の実際		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
6 教育機器を活用した学習指導		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
7 ICTを活用した学習指導		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
8 地域の施設や人材を活用した学習指導		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
9 ディベートや発表形式による学習指導		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
10 地域調査活動の実践		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
11 調査活動の整理と発表		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
12 模擬授業の実施と研究会（社会科地理的分野）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
13 模擬授業の実施と研究会（社会科歴史的分野）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
14 模擬授業の実施と研究会（社会科公民的分野）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
15 教育実習に向けての取り組みと総括		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について教育実習にどのように取り組むかを検討する。	2 時間

試験等
授業内に模擬授業やレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
授業中に、課題レポートや模擬授業についてコメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 中学校社会科教科書『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の風土』加賀美雅弘ほか22名，帝国書院 中学校社会科教科書『新しい社会 歴史』坂上康俊，矢ヶ崎典隆，谷口将紀ほか108名，東京書籍 中学校社会科教科書『社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して』江口勇治ほか16名，帝国書院 中学校公民の教科書は、社会・公民科教育法Ⅱの授業でも使用予定 中学校社会科又は高等学校地理歴史科・公民科の教科書のうち，教育実習校で使用予定のもの。
<参考書等> ・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』（文部科学省） ・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』（文部科学省） ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』（平成30年3月，文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』（平成30年，文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』（平成30年，文部科学省） ・『教育実習生のための学習指導案作成教本-社会地歴公民科-（改訂版）』，教育実習を考える会編，蒼丘書林 ・社会・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会・公民科教育法Ⅰ・Ⅱで使用したテキストを継続使用する。その他は，授業中に指示する。
オフィスアワー
火曜日4時限
連絡先
tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・社会科指導法演習Ⅱと連動させて展開する。 ・模擬授業の実施にあたっては，教材研究を十分行い事前指導を受け，綿密な指導案を作成する。

社会科指導法演習ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	16110	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
「社会・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ」及び「社会・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」で学んだ各教科教育の指導理論に基づき、実際の中学・高等学校使用の教材を用いて学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業後に研究会を行い、授業実践力を高める。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	社会科・地歴科・公民科の各分野の教材研究をもとに学習指導案を作成し、模擬授業ができる。				
2	授業観察及び授業実践を通じて、専門的知識や教科指導の技術を習得、表現するとともに、教師としての使命感を体得する。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 30%				1/2
2	模擬授業実践力 40%				1/2
3	課題レポート 30%				1/2
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高等学校での指導経験を通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 教材研究の方法					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間
2 社会科地理的分野における指導法の実際					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間
3 社会科歴史的分野における指導法の実際					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間
4 社会科公民的分野における指導法の実際					
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。				2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。				2 時間

5 学習指導案の作成法		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について模擬授業にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
6 模擬授業の実施と研究会（地理的分野-日本-）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
7 模擬授業の実施と研究会（地理的分野-世界-）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
8 模擬授業の実施と研究会（歴史的分野-古代・中世-）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
9 模擬授業の実施と研究会（歴史的分野-近世・近現代-）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
10 模擬授業の実施と研究会（公民的分野）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
11 模擬授業の実施と研究会（世界史）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
12 模擬授業の実施と研究会（日本史）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
13 模擬授業の実施と研究会（地理）		
事前学修	模擬授業に向けて、教科書を十分に読み込んだうえで教材研究と学習指導案の作成をする。	2 時間
事後学修	授業改善に向けて、授業の方法や内容についてふりかえる。	2 時間
14 教育実習事前指導（教育相談と教科教育）		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する。	2 時間
事後学修	授業の内容について教育実習にどのように取り組むかを検討する。	2 時間
15 指導法に関する総括		
事前学修	授業予定の内容について、教科書やその他の教材を活用してあらかじめ確認する	2 時間
事後学修	授業の内容について教育実習にどのように取り組むかを検討する。	2 時間

試験等
授業中にレポートや模擬授業を課す。
試験のフィードバックの方法
授業中に課題レポートや模擬授業についてコメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 中学校社会科教科書『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の風土』加賀美雅弘ほか22名，帝国書院 中学校社会科教科書『新しい社会 歴史』坂上康俊，矢ヶ崎典隆，谷口将紀ほか108名，東京書籍 中学校社会科教科書『社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して』江口勇治ほか16名，帝国書院 中学校社会科又は高等学校地理歴史科・公民科の教科書のうち，教育実習校で使用予定のもの。
<参考書等> ・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』（文部科学省） ・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』（文部科学省） ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』（平成30年3月、文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』（平成30年，文部科学省） ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』（平成30年，文部科学省） ・『学習指導案作成教本-社会・地歴・公民科（改訂版）』，教育実習を考える会編，蒼丘書林 ・社会・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会・公民科教育法Ⅰ・Ⅱで使用したテキストを継続使用する。その他は，授業中に指示する。
オフィスアワー
火曜日4時限
連絡先
tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・社会科指導法演習Ⅰと連動させて展開する。 ・模擬授業の実施にあたっては，教材研究を十分行い事前指導を受け，綿密な指導案を作成する。

家庭科指導法演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	16120	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	立石 麻美子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
家庭科の学習指導理論に基づき、ICT等を活用した模擬授業及び研究会の実施などを通して、具体的な授業場面を想定した実践的な指導方法を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	生徒の実態を考慮してICTや教材を効果的に活用した授業設計ができるとともに、作成した学習指導案に沿った模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 （20%）				1
2	模擬授業実践力 （40%）				1
3	課題レポート （40%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 学習指導の原理と方法及び学習指導案の構成					
事前学修	学習指導の原理と方法及び学習指導案の構成について情報収集し、概要を把握しておく。				2時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間
2. 生徒の実態を考慮した教材観、生徒観、指導観					
事前学修	生徒の実態を考慮した教材観、生徒観、指導観について情報収集し、概要を把握しておく。				2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間
3. 教材教具（実物見本、段階見本）の作成と活用方法					
事前学修	教材教具（実物見本、段階見本）の作成と活用方法について情報収集し、概要を把握しておく。				2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間
4. 教材教具（デジタルコンテンツ）の作成と活用方法					
事前学修	教材教具（デジタルコンテンツ）の作成と活用方法について情報収集し、概要を把握しておく。				2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間

5. 学習意欲を高め思考の深化に繋がる体験的な学習（ロール・レイング）の指導事例		
事前学修	学習意欲を高め思考の深化に繋がる体験的な学習（ロール・レイング）の指導事例について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
6. 学習意欲を高め思考の深化に繋がる体験的な学習（疑似体験）の指導事例		
事前学修	学習意欲を高め思考の深化に繋がる体験的な学習（疑似体験）の指導事例 について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
7. 学習指導案作成の手順、ICTの活用方法		
事前学修	学習指導案作成の手順、ICTの活用方法について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
8. 学習指導案の作成（指導と評価の計画、本時案）		
事前学修	学習指導案の作成（指導と評価の計画、本時案）について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
学習指導案の作成（指導細案、板書計画）		
事前学修	9. 学習指導案の作成（指導細案、板書計画）について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
1 0. 模擬授業及び研究会の進め方、振り返り及び授業改善の方法		
事前学修	模擬授業及び研究会の進め方、振り返り及び授業改善の方法について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
1 1. 模擬授業の実施と研究会（中学校 家族・家庭生活）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（中学校 家族・家庭生活）について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
1 2. 模擬授業の実施と研究会（中学校 消費生活・環境）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（中学校 消費生活・環境）について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
1 3. 模擬授業の実施と研究会（高等学校 衣生活）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（高等学校 衣生活）について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
1 4. 模擬授業の実施と研究会（高等学校 食生活）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（高等学校 食生活）について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
1 5. 家庭に関する専門学科における家庭科教育の現状（現場教員による特別講義）		
事前学修	家庭に関する専門学科における家庭科教育の現状について情報収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間

試験等
模擬授業の実施、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
模擬授業実施後に授業研究会を実施する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準
オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
tateishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
「家庭科指導法演習Ⅱ」と連動させて展開する。

家庭科指導法演習ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	16130	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	立石 麻美子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
ICTや教材の効果的な活用を図った模擬授業の実施及び研究会などを通して、授業改善の方法を具体的に学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	ICTや教材をより効果的に活用した授業設計をし、模擬授業の実施と振り返りを通して実践的な授業改善の視点を身に付けている。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 （20%）				1
2	模擬授業実践力 （40%）				1
3	課題レポート （40%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 生徒の実態を考慮した授業設計の方法					
事前学修	生徒の実態を考慮した授業設計の方法について情報を収集し、概要を把握しておく。				2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間
2. 家庭科におけるICT及び教材の効果的な活用法					
事前学修	家庭科におけるICT及び教材の効果的な活用法について情報を収集し、概要を把握しておく。				2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間
3. ICTを活用した衣生活・住生活に関する教材の活用法					
事前学修	ICTを活用した衣生活・住生活に関する教材の活用法 について情報を収集し、概要を把握しておく。				2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間
4. ICTを活用した食生活に関する教材の活用法					
事前学修	ICTを活用した食生活に関する教材の活用法 について情報を収集し、概要を把握しておく。				2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。				2 時間

5. ICTを活用した消費生活に関する教材の活用法		
事前学修	ICTを活用した消費生活に関する教材の活用法 について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
6. ICTを活用した保育や家族の生活に関する教材の活用法		
事前学修	ICTを活用した保育や家族の生活に関する教材の活用法 について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
7. 学習指導案の作成（本時案）		
事前学修	学習指導案の作成（本時案） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
8. 学習指導案の作成（細案と板書計画）		
事前学修	学習指導案の作成（細案と板書計画） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
9. 模擬授業の実施と研究会（個別学習とグループ学習の導入）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（個別学習とグループ学習の導入） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
10. 模擬授業の実施と研究会（ディベート等の導入）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（ディベート等の導入） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
11. 模擬授業の実施と研究会（衣生活に関する実験の導入）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（衣生活に関する実験の導入） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
12. 模擬授業の実施と研究会（住生活に関する実験の導入）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（住生活に関する実験の導入） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
13. 模擬授業の実施と研究会（調理実習の指導）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（調理実習の指導） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
14. 模擬授業の実施と研究会（保育に関する交流活動の指導）		
事前学修	模擬授業の実施と研究会（保育に関する交流活動の指導） について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
15. 中学校における家庭科教育の現状（現場教員による特別講義）		
事前学修	中学校における家庭科教育の現状について情報を収集し、概要を把握しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間

試験等
模擬授業の実施、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
模擬授業実施後に授業研究会を実施する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP 家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準
オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
tateishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
「家庭科指導法演習Ⅰ」と連動させて展開する。

教育方法論				単位数	2単位
授業コード	16133	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	杉能 道明				
時間割備考	食品栄養学科のみ履修可				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、教師として必要な教育方法、教育技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。学校教育における学習指導はもとより、給食指導、清掃指導、始業前・休息時・放課後の指導等の生活指導を含めた学校における教育活動全般についての教師の指導方法のあり方について、理論と実践を結び付け、具体的な実践事例をもとに検討し、教職に就く者として必要な指導技術を身に付けることができる。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	・子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	・教育の目的に適した指導技術を知り、身に付けようとする。			知識・技能／主体性	
3	・情報機器や教材の効果的な活用の仕方について基礎的な知識・技能を身に付ける。			知識・技能／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・定期試験およびレポート 70%			1／2	
2	・授業中の態度 30%			1／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年間の勤務経験を持ち、小1～中3までを担任した経験がある。この実務経験をもとに、子どもの具体的な姿を知らせ、学校現場が求める理論と実践を結び付けた実践的な指導の大切さを伝える。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
第1回：「教育の目的」達成のための教育方法（育成すべき資質・能力，教育方法の理論と実践）					
事前学修	・自分なりの教育観をもつために、日頃から教育問題に関心を持ち、本や雑誌、新聞やテレビなどのメディアから情報を得て考えを深めておくこと。 ・小学校学習指導要領（平成29年告示），「学びを創る・学びを支える」等を読んで，教育の目的，育成すべき資質・能力等について調べておくこと。				2時間
事後学修	・講義を振り返り，教育の目的，育成すべき資質・能力等についてまとめておくこと。				2時間
第2回：期待される教師像 教師の1日（教師に求められる資質・能力）					
事前学修	・「学びを創る・学びを支える」，志望する自治体の教員採用試験実施要項の「求める教員像」等を読んで，期待される教師像について調べておくこと。				2時間
事後学修	・講義を振り返り，期待される教師像についてまとめておくこと。				2時間
第3回：学級経営（学級づくり，学校と家庭の連携） ・学級経営の計画と内容、環境づくり ・学級事務、保護者との連携					
事前学修	・小学校時代の学年目標，学級目標，学年便りや学級便りのタイトル等を振り返り，教師の思いや願いを想像しておくこと。				2時間
事後学修	・講義を振り返り，学級経営についてまとめておくこと。				2時間

第4回：児童・生徒理解（児童理解の仕方） ・児童理解の方法、内容、対応 ・コンピュータを用いたデータの管理（整理と処理、個人情報の保護）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示）、「学びを創る・学びを支える」等を読んで、児童理解の仕方について調べておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、児童理解の仕方についてまとめておくこと。	2時間
第5回：学習評価（学習評価の考え方と方法）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示）、「学びを創る・学びを支える」等を読んで、学習評価について調べておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、学習評価についてまとめておくこと。	2時間
第6回：学習指導（1） インターネットを用いた情報の収集と活用及びモラル（情報モラル）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示）、「学びを創る・学びを支える」等を読んで、インターネットを用いた情報の収集と活用及びモラルについて調べておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、インターネットを用いた情報の収集と活用及びモラルについてまとめておくこと。	2時間
第7回：学習指導（2） Word、Excel、Power Pointを用いた表現及び技術（教材の作成・提示）		
事前学修	・Word、Excel、Power Pointを用いた教材の作成・提示について調べておくこと。	2時間
事後学修	・Word、Excel、Power Pointを用いて、学年便り又は学級便りを作成すること。	3時間
第8回：学習指導（3） 各教科（確かな学力の育成、主体的・対話的で深い学びの実現）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示）、「学びを創る・学びを支える」等を読んで、各教科等の学習指導における確かな学力の育成、授業改善の視点等について調べておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、各教科等の学習指導における確かな学力の育成、授業改善の視点等についてまとめておくこと。	2時間
第9回：学習指導（4） 各教科（基礎的な指導技術と学習指導案の作成）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示）、「学びを創る・学びを支える」等を読んで、各教科等の基礎的な指導技術と学習指導案の作成について調べておくこと。	2時間
事後学修	・算数科の学習指導案と板書計画を作成すること。	4時間
第10回：学習指導（5） 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間（現代的課題としての環境・食育・国際理解等）（目標、内容、方法、計画等）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示）、「学びを創る・学びを支える」等を読んで、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間の学習指導について調べておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間の学習指導についてまとめておくこと。	2時間
第11回：学習指導（6） 特別活動（集団づくり）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示）、「学びを創る・学びを支える」等を読んで、特別活動について調べておくこと。 ・集団づくりに活用できる遊びについて調べ、5分程度でできる活動を準備しておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、特別活動についてまとめておくこと。	2時間
第12回：学習指導（7） 家庭学習（学習習慣の定着）、学習規律（資質・能力を育成する方法）		
事前学修	・小学校時代の家庭学習、学習規律等を振り返り、教師の意図を考えておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、家庭学習、学習規律等についてまとめておくこと。	2時間
第13回：生活指導（1） 学校内における日常生活の指導（給食・清掃・休息等）（学校生活）		
事前学修	・小学校時代の学校生活（給食・清掃・休息等）を振り返り、教師の指導の意図を考えておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り、給食・清掃・休息等の指導についてまとめておくこと。	2時間
第14回：生活指導（2） 学校外における日常生活の指導（子どもの安全）		
事前学修	・新聞やニュースで、学校内外における子どもの事件や事故について調べておくこと。	2時間

事後学修	・講義を振り返り，学校内外における子どもの安全についてまとめておくこと。	2時間
第15回：教育方法の今日的課題（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）		
事前学修	・小学校学習指導要領（平成29年告示），「学びを創る・学びを支える」，新聞やニュース等で，教育方法の今日的課題について調べておくこと。	2時間
事後学修	・講義を振り返り，教育方法の今日的課題についてまとめておくこと。	2時間

試験等
レポート課題提出
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 「学びを創る・学びを支える」-新しい教育の理論と方法-, 広石英記, 一藝社, 9784863592124
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 小学校学習指導要領（平成29年告示） ＜参考書等＞ 生徒指導提要 自作プリント
オフィスアワー
オフィスアワー 月曜日 1 時限 金曜日 2 時限
連絡先
sugino@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育方法論				【単位数		2単位				
授業コード		16135	科目ナンバリング		510Z0-3000-x2	開講年度学期		2025年度第 1 期		
担当者氏名		高旗 浩志								
時間割備考										
授業形態（主）		1 講義								
授業形態（副）		2 演習								
担当形態		単独								
研究分野（大学院）										
本授業の概要										
授業は次代を担う子どもたちに必要な資質能力を育む重要な場である。この講義では、学習指導場面における教育の方法と技術ならびにICTを活用した教育の方法について、その理論的な背景も含めて理解する。欧米の教授学の歴史や日本の授業実践史を学ぶとともに、現代的教育課題も視野に収めつつ理論と実践を架橋する。具体的には、学習指導の技法とその背後にある思想、我が国の教育課程を支える学習指導要領の変遷と内容、学習指導案作成や授業づくりの基礎基本（教材研究、指示・発問・評価言、指導方略、学習形態、教育評価）、教育方法の今日的課題（「主体的・対話的で深い学び」、「特別なニーズへの対応」、「個別最適な学びと協働的な学び」等）、授業とICT活用及び情報活用能力の育成といった内容に取り組む。講義形式を中心とするが、実践事例の検討やケーススタディ等に関しては、協同学習の手法を取り入れ、演習的に行う場合もある。										
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク								
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）				
1	中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力（学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力）」、「構想力（教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力）」、「展開力（自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力）」、「評価力（生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力）」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。 ①確かな学力（生きる力）を育成する学習指導の基礎基本を理解する。						知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
2	②学習指導やICT利活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。						知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
3	③現代的教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。						知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
4										
5										
成績評価の基準						対応する到達目標の番号				
1	全出席を前提に、毎回の出席状況を重視します。						1／2／3			
2	学期末の評価課題レポートにより評価します。レポートの詳細は講義中に指示します。						1／2／3			
3										
4										
5										
実務経験のある教員による授業科目										
実務経験の授業への活用方法										
日本語以外の言語による授業										
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間						
第1回：「教育方法論」の目的と概要										
事前学修										
事後学修										
第2回：教育方法学の歴史（1）：西洋の教育思想と教育方法の歴史										
事前学修										
事後学修										
第3回：教育方法学の歴史（2）：日本の教育思想と教育方法の歴史										
事前学修										
事後学修										

第4回：教育目標・教育内容のとらえかた　－子どもは何を学ぶか		
事前学修		
事後学修		
第5回：「学習」とは何か　－様々な学習論		
事前学修		
事後学修		
第6回：「学力」と学習評価　－様々な学力論と学習評価の考え方		
事前学修		
事後学修		
第7回：「学習する集団」を育む授業づくり		
事前学修		
事後学修		
第8回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（1）：学習指導案の構成要素を理解する		
事前学修		
事後学修		
第9回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（2）：単元目標・単元構成と評価規準を理解する		
事前学修		
事後学修		
第10回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（3）：単元観・生徒観・指導観を理解する		
事前学修		
事後学修		
第11回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（4）：本時の展開計画を構想する		
事前学修		
事後学修		
第12回：ICT活用による授業観察と研修の実際（1）：優れた実践事例に学ぶ		
事前学修		
事後学修		
第13回：ICT活用による授業観察と研修の実際（2）：研修ツールとしてのLMSとGoogle Jamboard		
事前学修		
事後学修		
第14回：ICT活用によるデジタル教材の作成（1）：「個別最適な学び」と「協働的な学び」への対応		
事前学修		
事後学修		

第 1 5 回：ICT活用によるデジタル教材の作成（2）：情報活用能力と情報モラルの育成		
事前学修		
事後学修		
試験等		
試験のフィードバックの方法		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
・あなたが取得を希望している免許校種の『学習指導要領解説 総則編』（必携） ・あなたが取得を希望している免許教科・校種の『学習指導要領解説 ○○科編』（必携） ・講義用資料は別途作成し配布します。また参考文献やURL等は講義中に適宜指示します。		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
オフィスアワー		
質問等は授業後に受け付けます。		
連絡先		
takahata@okayama-u.ac.jp		
留意事項		

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）				単位数	2単位
授業コード	16137	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	高旗 浩志				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
授業は次代を担う子どもたちに必要な資質能力を育む重要な場である。この講義では、学習指導場面における教育の方法と技術ならびにICTを活用した教育の方法について、その理論的な背景も含めて理解する。欧米の教授学の歴史や日本の授業実践史を学ぶとともに、現代的教育課題も視野に収めつつ理論と実践を架橋する。具体的には、学習指導の技法とその背後にある思想、我が国の教育課程を支える学習指導要領の変遷と内容、学習指導案作成や授業づくりの基礎基本（教材研究、指示・発問・評価言、指導方略、学習形態、教育評価）、教育方法の今日的課題（「主体的・対話的で深い学び」、「特別なニーズへの対応」、「個別最適な学びと協働的な学び」等）、授業とICT活用及び情報活用能力の育成といった内容に取り組む。講義形式を中心とするが、実践事例の検討やケーススタディ等に関しては、協同学習の手法を取り入れ、演習的に行う場合もある。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力（学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力）」、「構想力（教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力）」、「展開力（自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力）」、「評価力（生徒の学習活動を評価するとともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力）」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。 ①確かな学力（生きる力）を育成する学習指導の基礎基本を理解する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	②学習指導やICT利活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	③現代的教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	全出席を前提に、毎回の出席状況を重視します。			1／2／3	
2	学期末に行う評価課題レポートの内容で評価します。レポートの詳細は授業中に指示します。			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
第1回：「教育方法論」の目的と概要					
事前学修	毎回の授業終了後に、テーマに係る400字以上600字以内の小レポートをオンラインで提出する。この小レポートを通して理解を深めたり、疑問点を整理したりする。提示された疑問点等については、次時の冒頭で紹介し、学生間のディスカッションを通してさらに理解を深める。				
事後学修					
第2回：教育方法学の歴史（1）：西洋の教育思想と教育方法の歴史					
事前学修					
事後学修					
第3回：教育方法学の歴史（2）：日本の教育思想と教育方法の歴史					
事前学修					
事後学修					

第4回：教育目標・教育内容のとらえかた　－子どもは何を学ぶか		
事前学修		
事後学修		
第5回：「学習」とは何か　－様々な学習論		
事前学修		
事後学修		
第6回：「学力」と学習評価　－様々な学力論と学習評価の考え方		
事前学修		
事後学修		
第7回：「学習する集団」を育む授業づくり		
事前学修		
事後学修		
第8回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（1）：学習指導案の構成要素を理解する		
事前学修		
事後学修		
第9回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（2）：単元目標・単元構成と評価規準を理解する		
事前学修		
事後学修		
第10回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（3）：単元観・生徒観・指導観を理解する		
事前学修		
事後学修		
第11回：ICT活用による学習指導案づくりの基礎基本（4）：本時の展開計画を構想する		
事前学修		
事後学修		
第12回：ICT活用による授業観察と研修の実際（1）：優れた実践事例に学ぶ		
事前学修		
事後学修		
第13回：ICT活用による授業観察と研修の実際（2）：研修ツールとしてのLMSとGoogle Jamboard		
事前学修		
事後学修		
第14回：ICT活用によるデジタル教材の作成（1）：「個別最適な学び」と「協働的な学び」への対応		
事前学修		
事後学修		

第 1 5 回：ICT活用によるデジタル教材の作成（2）：情報活用能力と情報モラルの育成		
事前学修		
事後学修		
試験等		
試験のフィードバックの方法		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
・あなたが取得を希望している免許校種の『学習指導要領解説 総則編』（必携） ・あなたが取得を希望している免許教科・校種の『学習指導要領解説 ○○科編』（必携） ・講義用資料は別途作成し配布します。また参考文献やURL等は講義中に適宜指示します。		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
オフィスアワー		
質問等は授業後に受け付けます。		
連絡先		
takahata@okayama-u.ac.jp		
留意事項		

道徳教育の理論と方法					単位数	2単位
授業コード	16145	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2025年度第 1 期	
担当者氏名	植田 和也					
時間割備考	8/28, 8/29, 9/1, 9/2					
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）	2 演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
道徳の本質、道徳教育の今日的な意義と役割、歴史と現状、道徳科の目標と内容、さらに、道徳教育の指導方法や内容等を学ぶ。また、多様な授業例の検討、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と相互評価等を通して実践的な指導力を身につけると共に、今後の道徳教育の在り方を主体的に考えていく。道徳教育における栄養教諭の在り方についても検討を加える。						

5 道徳性の発達理論と道徳教育における子どもの成長		
事前学修	1 配布した道徳性の発達に関する資料を読み、コールバーグの発達理論に関する疑問や不明確な点を質問できるように整理しておく。	1 (約2時間)
事後学修	1 解説の2章を読んでおく。 2 テキストの第3章を読んでおく。	1 (約1時間) 2 (約1時間)
6 学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容：中学校における道徳教育の具体例		
事前学修	1 解説の目標に関する指示した箇所を読んでおく。	1 (約2時間)
事後学修	1 授業で配布した高等学校の関係資料を読み、ミニレポートにまとめる。	1 (約2時間)
7 II実践編：学校における道徳教育の指導計画（高等学校の道徳教育についてもふれる）と道徳科の指導		
事前学修		
事後学修	1 高等学校の道徳教育について知りたいこと、より聞きたいことを考えておく。 2 自分の母校（中学校や高等学校）のHP等で、道徳教育の特徴について調べておく。	1 (約1時間) 2 (約1時間)
8 道徳科の多様な指導方法と実践事例（教材研究の方法）		
事前学修		
事後学修	1 学習指導要領解説特別の教科道徳第4章第1節、及びテキストの指定箇所を事前に読み込んでおく。	1 (約2時間)
9 道徳科の多様な教材と分析（多様な指導方法）		
事前学修	1 解説の多様な学習指導の工夫について読み、前回の授業で提示した課題について発表できるようにまとめておく。	1 (2時間)
事後学修	1 Nitsの道徳教育研修動画を視聴し、本時の学びとつなげてミニレポートにまとめる。	1 (4時間)
10 道徳科の教材と授業設計（グループ演習：授業のねらいと指導過程）		
事前学修	1 文科省HPの授業動画アーカイブから選択して、2本視聴し学んだことをまとめておく。	1 (約2時間)
事後学修	1 授業で配布した学習指導案を読み、工夫している点を見つけたり、参考にしたい点を整理したりしておく。	1 (約2時間)
11 道徳科における授業のねらいと学習指導案		
事前学修	1 選択した教材の指導案を解説等を参考に構想しておく。	1 (約2時間)
事後学修	1 学習指導案の指導の配慮事項や支援の書き方に関する資料を読んで理解しておく。	1 (約2時間)
12 道徳科の学習指導案の作成（グループ演習）		
事前学修	1 テキストや解説の関係箇所を読んでおく。	1 (約2時間)
事後学修	1 自らの作成した指導案をもとに模擬授業の準備をする。 2 グループで相談し打ち合わせをしておく。	1 (約2時間) 2 (約2時間)
13 道徳科の学習評価と授業評価、指導と評価の一体化		
事前学修		
事後学修	1 授業で配布した資料を読みミニレポートにまとめる。	1 (約2時間)
14 道徳科における模擬授業（グループ演習）		
事前学修	1 模擬授業の準備を行う。	1 (約4時間)
事後学修	1 模擬授業の振り返りを行い、まとめておく。	1 (約2時間)
15 模擬授業とまとめ、中学校、高等学校における道徳科の授業の実際		
事前学修	1 テキスト全体を再読しておく。	1 (2時間)
事後学修	1 テキスト、解説、資料を確認して最終レポートをまとめる準備をしておく。	1 (2時間)

試験等
定期試験は行わないが、授業における指導案の作成、ミニレポート、模擬授業、グループワーク等を行う。なお、最終レポートは授業のなかで提示する。
試験のフィードバックの方法
指導案の作成、ミニレポート、模擬授業、グループワークでの評価の具体的な視点や模範例は、授業内で説明する。最終レポートの評価の視点も具体的に示す。また、個別の質問にも必要があれば、対応する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成29年7月）、ISBN978-4-316-30084-9、教育出版 「子どもが輝く道徳授業～中学校道徳科の授業づくりから」監修著作者：七條 正典、 柴原 弘志 編著者：植田 和也、荊木 聡他ISBN978-4-86702-074-6（2024）あかつき教育図書 ○参考書 「特別の教科道徳～授業力向上への一歩～」監修：七條 正典 編著者：植田 和也他 ISBN 978-4863871335（2020）美巧社
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成29年7月）、ISBN978-4-316-30084-9、教育出版 「子どもが輝く道徳授業～中学校道徳科の授業づくりから」監修著作者：七條 正典、 柴原 弘志 編著者：植田 和也、荊木 聡他ISBN978-4-86702-074-6（2024）あかつき教育図書 ○参考書 「特別の教科道徳～授業力向上への一歩～」監修：七條 正典 編著者：植田 和也他 ISBN 978-4863871335（2020）美巧社必携書>
オフィスアワー
毎週の授業前後、またはメールによる質問を受ける。
連絡先
ueta. kazuya@kagawa-u. ac. jp
留意事項
（予習）この授業では、教育問題や道徳教育について自分なりの意見が持てるようになることを目指して、新聞を読んだり、関係する本や資料を読む努力が望まれる。 （復習）配布されたプリント類は、以後の学習に活用できるように講義ごとに整理してゆく。また、授業中に出された課題をまとめてくること。

総合的な学習の時間及び特別活動の指導法				単位数	2単位
授業コード	16150	科目ナンバリング	510Z0-2000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	森 泰三、後藤 緑				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
学習指導要領に基づき、総合的な学習（探究）の時間及び特別活動、それぞれの意義及び目標、内容を理解し、教科横断的な学習であることを念頭に置いて指導計画を作成する。小学校・中学校・高等学校における実践事例を研究し、それらの評価を通じて改善の方向を考察する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	総合的な学習（探究）の時間の意義と原理、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解し、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。				
2	特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度、授業課題（60%）				
2	課題レポート（40%）				
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
小学校・中学校・高等学校での指導経験を通じて獲得した指導技術を活用した指導を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
担当：1～8 森 9～15 後藤					
1 総合的な学習（探究）の時間及び特別活動の意義、ガイダンス					
事前学修	各自の中学校、高校時代の総合的な学習（探究）の時間及び特別活動について振り返り、教師の立場から考える。				2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。				2 時間
2 学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間の目標と内容					
事前学修	総合的な学習の時間中学校学習指導要領解説などを十分に読み込み、インターネットなどを利用して実践事例を調査する。				2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。				2 時間
3 教科横断型学習に基づく指導計画の作成					
事前学修	総合的な学習の時間中学校学習指導要領解説などを十分に読み込み、インターネットなどを利用して実践事例を調査する。				2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。				2 時間
4 総合的な学習の時間の全体計画					
事前学修	総合的な学習の時間中学校学習指導要領解説などを十分に読み込み、インターネットなどを利用して実践事例を調査する。				2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。				2 時間

5 年間指導計画と単元計画の作成		
事前学修	総合的な学習の時間中学校学習指導要領解説などを十分に読み込み、インターネットなどを利用して実践事例を調査する。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
6 総合的な学習（探究）の時間の実際、評価と体制		
事前学修	総合的な学習の時間中学校学習指導要領解説などを十分に読み込み、インターネットなどを利用して実践事例を調査する。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
7 総合的な学習の時間プラン発表①		
事前学修	総合的な学習の時間のプランを考える。	2 時間
事後学修	総合的な学習の時間のプランを考える。	2 時間
8 総合的な学習の時間プラン発表②		
事前学修	総合的な学習の時間のプランを考える。	2 時間
事後学修	各自の作成したプランの振り返りをする。	2 時間
9 学習指導要領における特別活動の目標と内容		
事前学修	特別活動の中学校学習指導要領解説などを十分に読み込む。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
10 教育課程と特別活動		
事前学修	特別活動の中学校学習指導要領解説などを十分に読み込む。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
11 学級活動、ホームルームの指導の在り方		
事前学修	特別活動の中学校学習指導要領解説などを十分に読み込む。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
12 生徒会活動、学校行事の特質と指導の在り方		
事前学修	特別活動の中学校学習指導要領解説などを十分に読み込む。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
13 特別活動と家庭・地域・関係機関との連携		
事前学修	特別活動の中学校学習指導要領解説などを十分に読み込む。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
14 特別活動の実践事例		
事前学修	特別活動の中学校学習指導要領解説などを十分に読み込む。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間
15 特別活動の評価と改善の在り方		
事前学修	特別活動の中学校学習指導要領解説などを十分に読み込む。	2 時間
事後学修	授業の内容について、実践事例を踏まえて振り返る。	2 時間

試験等
総合的な学習（探究）の時間、特別活動 それぞれに関するレポート
試験のフィードバックの方法
授業中に授業課題やレポートについてコメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
高等学校学習指導要領〈平成30年告示〉解説 総合的な探究の時間編／文部科学省／〔著〕／学校図書／270／9784762505362／冊子版
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編／文部科学省／東山書房／371／9784827815900／冊子版
中学校学習指導要領解説 特別活動編／文部科学省／東山書房／386／9784827815917／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考書等＞ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示），ISBN：978-4827815580，文部科学省，東山書房 高等学校学習指導要領（平成30年告示），ISBN：978-4827815672，文部科学省，東山書房 高等学校学習指導要領解説-特別活動編-（平成30年告示），ISBN：978-4487286355，文部科学省，東京書籍 小学校学習指導要領（平成29年告示），ISBN：978-4491034607，文部科学省，東洋館出版社 小学校学習指導要領解説-総合的な学習の時間編-（平成29年告示），ISBN：978-4487287086，文部科学省，東京書籍 小学校学習指導要領解説-特別活動編-（平成29年告示），ISBN：978-4487287093，文部科学省，東京書籍
オフィスアワー
森： 火曜日4限 後藤：授業の前後で質問を受け付ける
連絡先
森：tmori@m.ndsu.ac.jp 後藤：m.goto@m.ndsu.ac.jp
留意事項
総合的な学習（探究）の時間及び特別活動の学習指導要領解説を授業実践をイメージしながら熟読してほしい。教育の今日的課題に興味・関心を持って、情報収集し考察する態度が重要である。

生徒指導の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	16152	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて考察し、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための指導原理と方法を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 （30%）				1
2	提出課題・レポート （30%）				1
3	テスト （40%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
生徒指導主事、進路指導主事として教育実践に携わった経験に基づいて、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための考え方と方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけ					
事前学修	教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけについて、自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけについて学び得たことを記述して提出すること。				2時間
2 生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義					
事前学修	生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義について自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義について学び得たことを記述して提出すること。				2時間
3 生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点					
事前学修	生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点について学び得たことを記述して提出すること。				2時間
4 生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制の確立					
事前学修	生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制について自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制について学び得たことを記述して提出すること。				2時間

5 生徒指導の実践を支える基底（中学校教諭による特別講義）		
事前学修	生徒指導の実践を支える基底について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導の実践を支える基底について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
6 共感的理解に基づく生徒指導の重要性、テスト(1)		
事前学修	これまでの学び及び共感的理解に基づく生徒指導について自己の考えを整理して、小テスト及び講義に臨むこと。	2時間
事後学修	共感的理解に基づく生徒指導について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
7 生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメント		
事前学修	生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメントについて自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメントについて学び得たことを記述して提出すること。	2時間
8 生徒指導を生かした学級経営による基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成		
事前学修	生徒指導を生かした学級経営について自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導を生かした学級経営について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
9 特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導		
事前学修	特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
10 特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導		
事前学修	特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
11 生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いの理解		
事前学修	生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いについて、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いについて学び得たことを記述して提出すること。	2時間
12 生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導の原則		
事前学修	生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
13 暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携		
事前学修	暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
14 進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング、自己評価、テスト(2)		
事前学修	進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングについて、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングについて学び得たことを記述して提出すること。	2時間
15 各教科・道徳教育・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育		
事前学修	各教科・道徳教育・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	各教科・道徳教育・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育について学び得たことを記述して提出すること。	2時間

試験等
テスト、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
テスト、課題レポートについて評価後、コメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
生徒指導提要-令和4年12月-／文部科学省／東洋館出版社／900／9784491051758／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 講義で印刷資料を使用することがある。 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，2017年，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，2018年，文部科学省 ＜参考書等＞ 『キャリア教育のススメ』，2010年，ISBN978-4-487-80489-4，文部科学省国立教育政策研究所，東京書籍 『中学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30026-9，文部科学省，教育出版 『高等学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30058-0，文部科学省，教育出版
オフィスアワー
オフィスアワー：月曜日5限。随時メールで受け付ける。
連絡先
【伊木】higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教職課程履修生にふさわしい在り方で受講すること。 今日的な教育課題について関心を持ち，問題意識を高めていくこと。 各時間の自己評価を記述すること。 課題への取り組みを充実させ，期限を厳守して提出すること。

生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法				単位数	2単位
授業コード	16153	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて考察し、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための指導原理と方法を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 （30%）				1
2	提出課題・レポート （30%）				1
3	テスト （40%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
生徒指導主事、進路指導主事として教育実践に携わった経験に基づいて、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための考え方と方法を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけ					
事前学修	教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけについて、自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけについて学び得たことを記述し、レポートを提出すること。				2時間
2 生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義					
事前学修	生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。				2時間
3 生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点					
事前学修	生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。				2時間
4 生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制の確立					
事前学修	生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。				2時間

5 生徒指導の実践を支える基底（中学校教諭による特別講義）		
事前学修	生徒指導の実践を支える基底について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導の実践を支える基底について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
6 共感的理解に基づく生徒指導の重要性、テスト(1)		
事前学修	これまでの学び及び共感的理解に基づく生徒指導について自己の考えを整理して、小テスト及び講義に臨むこと。	2時間
事後学修	共感的理解に基づく生徒指導について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
7 生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメント		
事前学修	生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメントについて、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメントについて学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
8 生徒指導を生かした学級経営による基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成		
事前学修	生徒指導を生かした学級経営について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導を生かした学級経営について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
9 特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導		
事前学修	特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
10 特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導		
事前学修	特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
11 生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いの理解		
事前学修	生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いについて、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いについて学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
12 生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導の原則		
事前学修	生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
13 暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携		
事前学修	暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	暴力行為、いじめ、不登校及び虐待等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
14 進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング、自己評価、テスト(2)		
事前学修	これまでの学び及び進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングについて自己の考えを整理して、小テスト及び講義に臨むこと。	2時間
事後学修	進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングについて学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間
15 各教科・道徳教育・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育		
事前学修	各教科・道徳教育・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育について、自己の考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	各教科・道徳教育・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育について学び得たことを記述し、レポートを提出すること。	2時間

試験等
テスト、課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
テスト、課題レポートについて講義の中でコメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
生徒指導提要-令和4年12月-／文部科学省／東洋館出版社／900／9784491051758／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 講義で印刷資料を使用することがある。 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，2017年，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，2018年，文部科学省 ＜参考書等＞ 『キャリア教育のススメ』，2010年，ISBN978-4-487-80489-4，文部科学省国立教育政策研究所，東京書籍 『中学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30026-9，文部科学省，教育出版 『高等学校キャリア教育の手引き』，2011年，ISBN978-4-316-30058-0，文部科学省，教育出版
オフィスアワー
オフィスアワー：月曜日5限。随時メールで受け付ける。
連絡先
higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教職課程履修生にふさわしい在り方で受講すること。 今日的な教育課題について関心を持ち，問題意識を高めていくこと。 各時間の自己評価を記述すること。 課題への取り組みを充実させ，期限を厳守して提出すること。

生徒指導論				【単位数		2単位			
授業コード		16155	科目ナンバリング		510Z0-3000-x2	開講年度学期		2025年度第 1 期	
担当者氏名		土居 裕士							
時間割備考		食品栄養学科のみ履修可							
授業形態（主）		1 講義							
授業形態（副）									
担当形態		単独							
研究分野（大学院）									
本授業の概要									
小学校における生徒指導の意義と課題を学び、学校への関連性を視野に入れ、具体的な事例を交えながら、現代小学校教育における生徒指導のあり方を考える。									
アクティブラーニングの実施内容				グループ・ワーク					
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1	生徒指導の教育的意義を積極的な面からとらえ、一人一人の子どもにとって学校生活を有意義かつ充実したものとするための生徒指導のあり方を理解する。					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
2	校内の組織を活用し、また関係機関との連携を密にして、総合的な生徒指導を推進していくための素養を身に付ける。					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
3									
4									
5									
成績評価の基準						対応する到達目標の番号			
1	授業後の課題（レポート） 30%					1／2			
2	授業での態度 20%					1／2			
3	定期試験 50%					1／2			
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目				実務あり					
実務経験の授業への活用方法									
担当者自身が小学校教員として実践してきた生徒指導の経験を随時活用する。									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間					
1 生徒指導の意義と原理									
事前学修	『生徒指導提要』第1章を熟読し、概要をつかんでおくこと。						2 時間		
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。						2 時間		
2 教育課程と生徒指導、保健室（養護教諭等）との連携									
事前学修	『生徒指導提要』第2章を熟読し、概要をつかんでおくこと。						2 時間		
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。						2 時間		
3 児童生徒の心理と児童生徒理解									
事前学修	『生徒指導提要』の該当部分を再読し、要点を整理しておくこと。						2 時間		
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。						2 時間		
4 発達課題と不適応行動									
事前学修	子どもの発達課題や不適応行動について調査し、要点をまとめておくこと。						2 時間		
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。						2 時間		

5 学校における生徒指導体制		
事前学修	『生徒指導提要』第3章を熟読し、概要をつかんでおくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
6 教育相談１：教育相談の意義と進め方		
事前学修	『生徒指導提要』の該当部分を再読し、要点を整理しておくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
7 教育相談２：表現療法的技法の意味		
事前学修	表現療法的技法について調査し、要点をまとめておくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
8 生徒指導の進め方１：児童生徒全体への指導		
事前学修	『生徒指導提要』の該当部分を再読し、要点を整理しておくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
9 生徒指導の進め方２：問題行動とは何か		
事前学修	問題行動について調査し、要点をまとめておくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
10 生徒指導の進め方３：反社会的行動		
事前学修	反社会的行動について調査し、要点をまとめておくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
11 生徒指導の進め方４：非社会的行動		
事前学修	非社会的行動について調査し、要点をまとめておくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
12 生徒指導の進め方５：不登校		
事前学修	『生徒指導提要』第10章を熟読し、概要をつかんでおくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
13 生徒指導の進め方６：いじめ		
事前学修	『生徒指導提要』第4章を熟読し、概要をつかんでおくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
14 生徒指導の進め方７：発達障害		
事前学修	『生徒指導提要』第13章を熟読し、概要をつかんでおくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間
15 生徒指導に関する法制度等、関係機関との連携		
事前学修	『生徒指導提要』の該当部分を再読し、要点を整理しておくこと。	2時間
事後学修	講義の内容を振り返ったレポートを作成し提出すること。	2時間

試験等
第16週目に定期試験を行う。
試験のフィードバックの方法
manabaに模範解答を掲示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
生徒指導提要-令和4年12月-／文部科学省／東洋館出版社／900／9784491051758／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）／文部科学省／東洋館出版社／201／9784491034607／冊子版
オフィスアワー
質問は、随時電子メール等で受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）。
連絡先
doi164@m.ndsu.ac.jp
留意事項

教育相談					単位数	2単位
授業コード	16160	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期	
担当者氏名	日下 紀子					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）	2 演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
教育相談とは何か、学校教育相談の変遷と、教育相談の目的と意義について理解する。そのうえで、問題行動・逸脱行動、あるいは大きな悩みや苦痛を抱えた児童生徒を前にしたとき、教師は、彼らがどのような気持ちを抱きながら困っているのかという心理的メカニズムを理解することが重要である。またそのようなときには保護者が抱える困難感についての心理的理解も同時に必要である。 学校現場にて教育相談を進める際には、子どもの個々の心理的特質や教育課題を適切に捉え、カウンセリングマインドに基づいた受容・傾聴、共感的理解等の姿勢と技法が必要になる。その基本について学び、理解する。さらには、教育相談における組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの多職種を有効に活用しながら、教師が児童生徒と保護者の支援を行っていく道筋を具体例を通して理解し、学んでいく。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。				知識・技能／思考・判断・表現力	
2	学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。				知識・技能／思考・判断・表現力	
4	個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度・リアクションシート		30%		1／2／3／4	
2	小テスト		20%		1／2／3	
3	期末課題試験		50%		1／2／3／4	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
臨床心理士・公認心理師として医療機関や民間の心理相談専門機関にて心理相談ならびに教育相談、心理療法、心理アセスメントに携わっている経験から事例を取り上げ、学校現場に生じる臨床的課題や思春期青年期の心理発達課題、精神力動について多角的、多面的に理解していく。さらに家庭、地域、専門機関との連携についても、事例を通して具体的・実践的に理解し、自ら考え、実行できるような基盤の構築を促す授業を展開する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間			
1. 授業ガイダンス、学校教育相談の変遷						
事前学修	教育相談の位置づけについてみておくこと。毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。				2時間	
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体T系に文献資料にあたり理解を深めていくこと。				2時間	
2. 教育相談の意義と目的、課題						
事前学修	教育相談の必要性と意義について、これまでの体験に基づいた疑問や考えをできるだけ言葉にしておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。				2時間	
事後学修	教育相談が必要な機会と手段について考えをまとめておくこと。 授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体T系に文献資料にあたり理解を深めていくこと。				2時間	
3. 子どもたち（幼児・児童・思春期・青年期）の発達課題と心の問題						
事前学修	エリクソンの発達段階と心理社会発達課題について調べておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。				2時間	
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。				2時間	
4. 校内ニーズの把握（子ども・保護者・教師）-心の問題と進路指導・キャリア教育の視点						
事前学修	学校は子どもたちが生活の長時間を過ごす場所である。そこでのニーズは何かを考えること。毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。				2時間	
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。				2時間	

5. 心の問題とそのシグナルに気づき、発達課題、関係性を理解する		
事前学修	学童期、思春期、青年期に生じやすい心の問題とは何か、毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
6. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性		
事前学修	カウンセリング、カウンセリング・マインドの言葉の意味を調べておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	カウンセリング・マインドとは何か、具体例を挙げて説明ができるように考えをまとめてみること。 授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
7. 受容・傾聴・共感的理解		
事前学修	受容・傾聴・共感的理解の意味を調べておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
8. 不登校現象の今日的意味と個々の発達課題の理解-教育相談の目標		
事前学修	中学校・高校における不登校の要因についてどのようなものがあるのか調べておくこと。学童期・思春期・青年期の発達課題について復習しておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
9. 保護者とともに子どもとの関係性を理解する-保護者との連携・教育相談の進め方		
事前学修	保護者との協力体制をつくるうえで、自分が不安に思うことは何かをできるだけ言葉にしておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
10. 問題行動（いじめ、虐待、非行等）の心理と意義の理解-教育相談の計画と進め方		
事前学修	こども家庭庁のサイトを閲覧し、児童虐待の防止等に関する法律第2条、児童虐待の定義と種類を確認しておくこと。そのほかの問題行動についても 毎日のニュースや新聞記事などから主体的・積極的に関心を持ち、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
11. 心の病と心の傷（トラウマ）への対応-教育相談の展開		
事前学修	児童期から青年期に多くみられる心の病気にはどのようなものがあるのかを考えてみて、調べておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
12. さまざまなトピックス：性的マイノリティ（LGBT）・教員のメンタルヘルス		
事前学修	性に関する課題についてどのようなものがあるのか、様々なトピックスはどのようなものがあるのかを考えておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体T系に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
13. 教育相談におけるアセスメント		
事前学修	具体的な支援を行うために教育相談におけるアセスメントとは、どのようなものがあるのかを考え、調べてみること。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
14. 学校内外の組織的指導体制と取り組み		
事前学修	「チーム学校」の実現のための視点について、生徒指導提要や文科省の差異となどの資料にあたり、調べておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体的に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間

15. 家庭や地域、専門機関との連携		
事前学修	校外の連携先として、どのような専門機関があるのか、それぞれどのような役割を担っているのかを調べておくこと。毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、自分の感想を言葉にして考える時間を持つこと。 テーマに関する疑問や考えをまとめて授業に臨むこと。	2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにすること。さらに内容を定着させるよう各自、主体T系に文献資料にあたり理解を深めていくこと。	2 時間
試験等		
期末課題試験		
試験のフィードバックの方法		
すべての成績評価が終わった段階で、manaba-folioを通じて全体的な総評を伝える。		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
森田健宏・吉田佐治子編著、教育相談〔第2版〕（よくわかる！教職エクササイズ）、ミネルヴァ書房（2024/3/26）、978-4-623-096114		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
＜参考書・参考資料等＞		
中学校生徒指導提要（改訂版 文部科学省）		
下記文献は、参考になりますので読んでみてください。		
原田真理（2018）子どものころ、大人のころ-先生や保護者が判断を誤らないための手引書- ナカニシヤ出版 原田真理（2020）改訂第2版 教育相談の理論と方法 玉川大学出版部 平井正三・上田順一編（2016） 学校臨床に役立つ精神分析 誠信書房 Iザルハガー・ウィッテンバーグ他著 平井正三他監訳（2008）学校現場に生かす精神分析-学ぶことと教えることの情緒的体験 岩崎学術出版社 ビディ・ヨーエル著 平井正三監訳・鈴木誠訳（2009）学校現場に生かす精神分析【実践編】 岩崎学術出版社 *その他の参考文献・資料などは必要に応じて紹介する		
オフィスアワー		
オフィスアワーは、火曜3限目。そのほかに希望する場合は、教員に申し出て相談してください。 または、授業終了後に教室で質問を受け付けます。		
連絡先		
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp		
留意事項		
この科目は教職課程の必修科目であり、教育現場に出ていく履修者にとっては、きわめて切実な問題に触れ、考える授業ともいえる。教育実習に向けての基礎的な知識や理解、心構えを積極的に学び取ろうという意欲を持って授業に取り組んでください。なお、事例については、守秘遵守を心がけてください。		

中等教育実習事前事後指導【英】				【単位数		1単位			
授業コード		16180	科目ナンバリング		510Z0-4000-x1	開講年度学期		2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名		小橋 雅彦							
時間割備考									
授業形態（主）		1 講義							
授業形態（副）		2 演習							
担当形態		単独							
研究分野（大学院）									
本授業の概要									
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義が理解できている。									
アクティブラーニングの実施内容				グループ・ディスカッション					
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。					知識・技能／思考・判断・表現力			
2	教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。					知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
3									
4									
5									
成績評価の基準						対応する到達目標の番号			
1	授業への参加姿勢（20%）					1／2			
2	課題レポート（50%）					1／2			
3	教育実習日誌（30%）					2			
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目				実務あり					
実務経験の授業への活用方法									
国立大附属中・高等学校において多くの教育実習生の指導に携わっていた経験を、教育実習に向けての心構え、教育実習中の過ごし方、教育実習後の振り返りなどの指導に生かすことができる。									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間					
《事前指導》									
1. 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項									
事前学修	教職課程で学修した関連項目について復習しておく。							2時間	
事後学修	講義や演習の内容について教育実習に活かせるよう整理する。							2時間	
2. 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）									
事前学修	動機付けや評価について復習をしておく。							2時間	
事後学修	演習内容を振り返り、教育実習に向けて整理する。							2時間	
3. 特別な配慮が必要な生徒との関わり方（教科指導及び学級指導）									
事前学修	特別支援教育について復習をしておく。							2時間	
事後学修	講義内容を振り返り、教育実習に向けて整理する。							2時間	
4. 学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果									
事前学修	教育の基礎的理解に関する科目で学習した内容について復習する。							2時間	
事後学修	演習で得た新たな気づき等について振り返り整理する。							2時間	

5. 学校現場の教育課題（ICTの活用等）と対応方法、事務処理とその必要性		
事前学修	道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目における学修内容を復習しておく。	2時間
事後学修	演習で得た新たな気づき等について振り返り整理する。	2時間
6. 教育実習に向けた実践課題の整理と確認		
事前学修	英語科指導法演習Ⅰ・Ⅱで行った模擬授業について、課題を振り返る。	2時間
事後学修	改めて実践した模擬授業から得た新たな課題について、教育実習に向けた解決方法を探る。	2時間
《事後指導》		
7. 教育実習の成果と課題の省察		
事前学修	教育実習日誌を整理する。	2時間
事後学修	「教員の職務から必然的に求められる資質能力」の観点から教職への適性について振り返り整理する。	2時間
8. 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化		
事前学修	専門職としての教師について教育実習を振り返り考えをまとめる。	2時間
事後学修	演習から新たに気づいた課題についてまとめる。	2時間
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
教育実習日誌・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 <参考書等> 「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ・教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ・講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。

中等教育実習事前事後指導〔日〕				単位数	1単位
授業コード	16190	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢（20%）				1／2
2	課題レポート（50%）				1／2
3	教育実習日誌（30%）				2
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法を指導するとともに、教育実習をふりかえり成果と課題を自覚できるよう指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
《事前指導》					
1 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項					
事前学修	教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項について自らの認識を整理して講義に臨むこと。提出課題を整えて持参すること。				2時間
事後学修	教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項について学び得たことを記述して提出すること。				2時間
2 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）					
事前学修	生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）について自らの認識を整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）について学び得たことを記述して提出すること。				2時間
3 特別な配慮が必要な生徒との関わり方（教科指導及び学級指導）					
事前学修	特別な配慮が必要な生徒との関わり方（教科指導及び学級指導）について自らの認識を整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	特別な配慮が必要な生徒との関わり方（教科指導及び学級指導）について学び得たことを記述して提出すること。				2時間
4 学級担任及び教科担任の職務、協働の重要性と教育効果					
事前学修	学級担任及び教科担任の職務、協働の重要性と教育効果について自らの認識を整理して講義に臨むこと。				2時間
事後学修	学級担任及び教科担任の職務、協働の重要性と教育効果について学び得たことを記述して提出すること。				2時間

5 学校現場の教育課題（ＩＣＴの活用等）と対応方法，事務処理とその必要性		
事前学修	学校現場の教育課題（ＩＣＴの活用等）と対応方法，事務処理とその必要性について自らの認識を整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	学校現場の教育課題（ＩＣＴの活用等）と対応方法，事務処理とその必要性について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
6 教育実習に向けた実践課題の整理と確認		
事前学修	教育実習に向けた実践課題の整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	教育実習に向けた実践課題について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
《事後指導》		
7 教育実習の成果と課題の省察		
事前学修	教育実習の成果と課題を共有できるよう準備を整えて講義に臨むこと。 教育実習日誌を指示に従って提出すること。	2時間
事後学修	教育実習の成果と課題の共有を通して学び得たことを記述して提出すること。	2時間
8 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化		
事前学修	望ましい教師像と取り組むべき課題について自らの考えを整理して講義に臨むこと。 学習記録を整えて持参すること。	2時間
事後学修	望ましい教師像と取り組むべき課題について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
教育実習日誌・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』， 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編』， 文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校国語』， 2020年，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』， 2021年，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社 中学校国語科用教科書及び高等学校国語科用教科書 『新編 教えるということ』， 1996年，大村はま，ちくま学芸文庫 『新編 教室をいきいきと 1』， 1994年，大村はま，ちくま学芸文庫 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』， 2019年，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻別巻1』， 大村はま，筑摩書房 「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」「国語科指導法演習Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。
オフィスアワー
オフィスアワー 【伊木】水曜日3限。随時メールで受け付ける。
連絡先
【伊木】higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 講義の中でPCを使用することがある。ノートPCを持参すること。 教育実習生として自覚の乏しい者，欠席の多い者，成績不良の者は，学外実習に参加することを認めない。 講義の時間帯以外に，模擬授業を実施することがある。

中等教育実習事前事後指導【人】				【単位数	1単位
授業コード	16200	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	立石 麻美子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 （20%）				1／2
2	課題レポート （50%）				1／2
3	教育実習日誌 （30%）				2
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法を指導するとともに、教育実習を振り返って成果と課題を自覚できるように指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
《事前指導》					
1. 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項					
事前学修	実習日誌や講義資料を通して、教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項について把握する。				2時間
事後学修	授業を振り返り、教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項について、整理する。				2時間
2. 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）					
事前学修	生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）について、情報を収集し、自分の考えをまとめる。				2時間
事後学修	授業を通して、生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）について、教育実習で実践できるように整理する。				2時間
3. 特別な配慮の必要な生徒の関わり方（教科指導及び学級指導）					
事前学修	特別な配慮の必要な生徒の関わり方（教科指導及び学級指導）について、情報を収集し、内容を把握する。				2時間
事後学修	授業を振り返り、特別な配慮の必要な生徒の関わり方（教科指導及び学級指導）について、教育実習で実践できるように、整理する。				2時間
4. 学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果					
事前学修	学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果について、事前に情報収集し、内容を把握しておく。				2時間
事後学修	授業を振り返り、学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果について、教育実習で実践できるように内容を整理する。				2時間

5. 学校現場の教育課題（ICTの活用等）と対応方法、事務処理とその必要性		
事前学修	学校現場の教育課題（ICTの活用等）と対応方法、事務処理とその必要性について、内容を把握する。	2時間
事後学修	学校現場の教育課題（ICTの活用等）と対応方法、事務処理とその必要性について、教育実習で実践できるように内容を理解する。	2時間
6. 教育実習に向けた実践課題の整理と確認		
事前学修	教育実習に向けた実践課題の整理と確認について、実習日誌をまとめる。	2時間
事後学修	教育実習に向けた実践課題の整理と確認について、自らの課題と向き合い、実習に向けて準備をする。	2時間
7. 模擬授業の実施と研究会①		
事前学修	教育実習を見据えて、学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業の実施を終えて、研究会で得られた意見を教育実習に活用できるように振り返りレポートを作成する。	2時間
8. 模擬授業の実施と研究会②		
事前学修	教育実習を見据えて、学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業の実施を終えて、研究会で得られた意見を教育実習に活用できるように振り返りレポートを作成する。	2時間
9. 模擬授業の実施と研究会③		
事前学修	教育実習を見据えて、学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業の実施を終えて、研究会で得られた意見を教育実習に活用できるように振り返りレポートを作成する。	2時間
10. 模擬授業の実施と研究会④		
事前学修	教育実習を見据えて、学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業の実施を終えて、研究会で得られた意見を教育実習に活用できるように振り返りレポートを作成する。	2時間
11. 模擬授業の実施と研究会⑤		
事前学修	教育実習を見据えて、学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業の実施を終えて、研究会で得られた意見を教育実習に活用できるように振り返りレポートを作成する。	2時間
12. 模擬授業の実施と研究会⑥		
事前学修	教育実習を見据えて、学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業の実施を終えて、研究会で得られた意見を教育実習に活用できるように振り返りレポートを作成する。	2時間
13. 模擬授業の実施と研究会⑦		
事前学修	教育実習を見据えて、学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業の実施を終えて、研究会で得られた意見を教育実習に活用できるように振り返りレポートを作成する。	2時間
《事後指導》		
14. 教育実習の成果と課題の省察		
事前学修	教育実習の成果と課題の省察について、実習日誌を整理する。	2時間
事後学修	教育実習の成果と課題の省察について、他者と共有し、成果と課題を発表する。	2時間
15. 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化		
事前学修	望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化ができるように、教育実習を振り返りまとめる。	2時間
事後学修	授業を通して、望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化ができるように、情報を共有する。	2時間

試験等
教育実習日誌・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領』， 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』， 文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』， 国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』， 国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書
<参考書等> 『新版 授業力UP 家庭科の授業』， 伊藤葉子編著， 日本標準
オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
tateishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ・教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ・講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。

中等教育実習Ⅰ [英]				単位数	4単位
授業コード	16210	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考	学外実習				
授業形態（主）	3 実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1. 生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	2. 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担当等の補助的な役割を担うことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	3. 生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	4. 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる ことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○実習への参加姿勢（20%）			1／2／3／4	
2	○教育実習評価表による評価（50%）			1／2／3／4	
3	○教育実習日誌（30%）			1	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
公立高等学校、国立大附属中・高等学校において学校教育に携わっていた経験から、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長・教頭・実習指導主任・学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主任の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動等、教科指導以外の様々な指導の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（10～20時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、情報機器の活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数120時間以上を以って、単位認定の対象とする。					
事前学修	○教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、教育目標にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 ○授業に実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教員に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。 ○教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。 *実習期間中は、予習・復習に3時間以上が必要。				
事後学修					

試験等
教育実習日誌
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ○『中学校学習指導要領解説外国語編』、文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説外国語編』、文部科学省 ○各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> ○「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚に乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてのマナーを厳守すること。

中等教育実習Ⅰ〔日〕				[単位数		4単位
授業コード	16220	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名	伊木 洋					
時間割備考	学外実習					
授業形態（主）	3 実験・実習・実技					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。						
アクティブラーニングの実施内容						
体験学習						
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実在即して記録することができる。					
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。					
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。					
4	学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。					
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢（20%）				1/2/3/4	
2	教育実習評価表による評価（50%）				1/2/3/4	
3	教育実習日誌（30%）				1	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
事前・事後学修内容と時間						
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（10～20時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数120時間以上を以って、単位認定の対象とする。						
事前学修						
事後学修						

試験等
教育実習日誌の提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』， 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編』， 文部科学省 各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』， 2019年， 978-4-491-03767-7， 全国大学国語教育学会編， 東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』， 大村はま， 筑摩書房
オフィスアワー
オフィスアワー： 【伊木】水曜日3限。随時メールで受け付ける。
連絡先
【伊木】higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教育実習生としてのマナーを厳守し，ふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 教育実習生として自覚の乏しい者，欠席の多い者，成績不良の者は，学外実習に参加することを認めない。 定められた実習総時間数を満たせない場合は単位認定できなくなるため，体調管理に努め欠席しないこと。 万一の場合，事前に指示された方法で適切に対応すること。 自らの責任の重さを自覚し，実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 教育実習校の指導教員の指導のもと学習指導案を作成し，綿密な準備を行うこと。 教育実習日誌を丁寧に作成し，指示された〆切を厳守して提出すること。

中等教育実習Ⅰ〔人〕				単位数	4単位
授業コード	16230	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	立石 麻美子				
時間割備考	学外実習				
授業形態（主）	3 実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実在即して記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢（20%）				1／2／3／4
2	教育実習評価表による評価（50%）				1／2／3／4
3	教育実習日誌（30%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。					
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長・教頭・教育実習指導主任・学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（10～20時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議会 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数120時間以上をもって、単位認定の対象とする。					
事前学修	・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。				毎日3時間
事後学修	・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する。				毎日1時間

本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。		
事前学修	・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。	毎日 3 時間
事後学修	・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する	毎日 1 時間
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。		
事前学修	・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。	毎日 3 時間
事後学修	・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する	毎日 1 時間
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。		
事前学修	・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。	毎日 3 時間
事後学修	・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する	毎日 1 時間

試験等
教育実習日誌の提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新版 授業力UP 家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準
オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
tateishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ・教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ・自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ・教育実習生としてのマナーを厳守すること。

中等教育実習ⅠⅠ [英]				単位数	2単位
授業コード	16240	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考	学外実習				
授業形態（主）	3 実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業（学外実習）は、高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1. 生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即到して記録することができる。				
2	2. 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動ならびに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	3. 生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を实地即到して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	4. 学級旧担任の役割と職務内容を实地即到して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる ことができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・実習への参加姿勢：20%（到達目標1, 2, 3, 4）				1／2／3／4
2	・教育実習評価表による評価：50%（到達目標1, 2, 3, 4）				1／2／3／4
3	・教育実習日誌：30%（到達目標1）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長・教頭・教育実習指導主任・学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主任の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部補助的にを担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（5～15時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、情報機器の活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数60時間以上を以って、単位認定の対象とする。					
事前学修	○教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 ○授業に実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教員に学習指導案を提出し、綿密は準備をすること。○教育実習日誌を丁寧 に作成し、学び得たことを蓄積すること。 * 実習期間中は、予習・復習に3時間以上が必要。				
事後学修					

試験等
教育実習日誌
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ ○『高等学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 ○各実習校から指定された文部科学省検定教科書 ＜参考書等＞ ○「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」で用いたテキストを随時使用する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚に乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてマナーを厳守すること。

中等教育実習ⅠⅡ〔日〕				単位数	2単位
授業コード	16250	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考	学外実習				
授業形態（主）	3 実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実在即して記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢（20%）				1／2／3／4
2	教育実習評価表による評価（50%）				1／2／3／4
3	教育実習日誌（30%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（5～15時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数60時間以上を以って、単位認定の対象とする。					
事前学修	教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 授業の実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教員に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。				
事後学修	教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。				

試験等
教育実習日誌の提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』， 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』， 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編』， 文部科学省 各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』， 2019年， ISBN978-4-491-03767-7， 全国大学国語教育学会編， 東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』， 大村はま， 筑摩書房
オフィスアワー
オフィスアワー： 【伊木】水曜日3限。随時メールで受け付ける。
連絡先
【伊木】higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業は、高校一種免許状のみを希望する者を対象とする。 教育実習生としてのマナーを厳守し、ふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 定められた実習総時間数を満たせない場合は単位認定できなくなるため、体調管理に努め欠席しないこと。 万一の場合、事前に指示された方法で適切に対応すること。 自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 教育実習校の指導教員の指導のもと学習指導案を作成し、綿密な準備を行うこと。 教育実習日誌を丁寧に作成し、指示された〆切を厳守して提出すること。

中等教育実習ⅠⅡ〔人〕				【単位数】		2単位			
授業コード		16260	科目ナンバリング		510Z0-4000-x2	開講年度学期		2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名		立石 麻美子							
時間割備考		学外実習							
授業形態（主）		3 実験・実習・実技							
授業形態（副）									
担当形態		単独							
研究分野（大学院）									
本授業の概要									
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。									
アクティブラーニングの実施内容				体験学習					
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）			
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実在即して記録することができる。								
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。								
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。								
4	学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。								
5									
成績評価の基準						対応する到達目標の番号			
1	実習への参加姿勢（20%）						1／2／3／4		
2	教育実習評価表による評価（50%）						1／2／3／4		
3	教育実習日誌（30%）						1		
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目				実務あり					
実務経験の授業への活用方法									
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間					
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で2週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。									
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長・教頭・教育実習指導主任・学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（5～15時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議会 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出 ○実習総時間数60時間以上をもって、単位認定の対象とする。									
事前学修		・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。						毎日3時間	
事後学修		・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する。						毎日1時間	

本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で2週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。		
事前学修	・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。	毎日 3 時間
事後学修	・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する	毎日 1 時間
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で2週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。		
事前学修	・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。	毎日 3 時間
事後学修	・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する	毎日 1 時間
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で2週間実施する。 実習のため1週目～15週目までの授業予定は、1週目に示す。		
事前学修	・教育実習校の指導教員の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置付け、指導と評価の充実を図った学習指導案の作成等をする。	毎日 3 時間
事後学修	・教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積する	毎日 1 時間

[illegible]

試験等
教育実習日誌の提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領』、文部科学省 『高等学校学習指導要領』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター ・各実習校が指定した文部科学省検定教科書
<参考書等> 『新版 授業力UP 家庭科の授業』、伊藤葉子編著、日本標準
オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
tateishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業は、高校一種免許状のみを希望する者を対象とする。 ・教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ・教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ・自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ・教育実習生としてのマナーを厳守すること。

教職実践演習（中・高）【英】				単位数	2単位
授業コード	16265	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	小橋 雅彦				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数／オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教員免許取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等、演習形式で授業を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を記述することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況（40%）			1	
2	課題レポート（30%）			1	
3	定期試験（30%）			1	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高等学校において英語教育に携わっていた経験から、中等教育における英語学習上の課題を具体的に把握しており、高等教育における英語指導においてもその経験を十分に活かすことができる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 演習①「青年教師としての在り方・生き方」（グループ討議）					
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。			120分	
事後学修	「青年教師としての在り方・生き方」についての考えを、グループ討議を通して得た新たな気付き等に基づいて再構築する。			120分	
2 演習②「教育課程の実際とICTの活用」（グループ討議）					
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。			120分	
事後学修	「教育課程の実際とICTの活用」についての考えを、グループ討議を通して得た新たな気付き等に基づいて再構築する。			120分	
3 演習③「生徒指導の理論と実践」（グループ討議）					
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。			120分	
事後学修	「生徒指導の理論と実践」についての考えを、グループ討議を通して得た新たな気付き等に基づいて再構築する。			120分	
4 演習④「学校運営と地域連携の在り方」（グループ討議）					
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。			120分	
事後学修	「学校運営と地域連携の在り方」についての考えを、グループ討議を通して得た新たな気付き等に基づいて再構築する。			120分	

5 現地調査①「授業参観」（中学校）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「現地調査①「授業参観」（中学校）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
6 現地調査②「授業参観」（高等学校）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「現地調査②「授業参観」（高等学校）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
7 現地調査③「教育の心」（訪問学校の校長による講話）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「現地調査③「教育の心」（訪問学校の校長による講話）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
8 現地調査④「学校現場の実際」（訪問学校の教員とのグループ討論）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「現地調査④「学校現場の実際」（訪問学校の教員とのグループ討論）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
9 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」（グループ討議）（元校長会会長）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「演習⑤「これからの若い先生に期待すること」（グループ討議）（元校長会会長）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
10 演習⑥「女性教師としての生き方」（グループ討議）（元中学校長）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「演習⑥「女性教師としての生き方」（グループ討議）（元中学校長）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
11 事例研究①「より良い授業を目指して」（現職教諭）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「事例研究①「より良い授業を目指して」（現職教諭）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
12 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」（現職教諭）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「事例研究②「心の教育をいかに実践するか」（現職教諭）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
13 模擬授業①（中学校＜ロールプレイを含む＞）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「模擬授業①（中学校＜ロールプレイを含む＞）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
14 模擬授業②（高等学校＜ロールプレイを含む＞）		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	「模擬授業②（高等学校＜ロールプレイを含む＞）」について振り返り、気づき等を整理する。	120分
15 4年間の総括		
事前学修	教職課程における学びの総括として位置づけ、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめる。	120分
事後学修	4年間の総括をレポート形式で提出する。	120分

試験等
定期試験・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
後日、解答を掲示。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領解説 総則編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 <参考書等> 担当者から別途指示する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
mkobashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教職課程履修者生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教員として必要な資質・能力が身に付いているか、現地調査、事例研究、グループ討議等を通して確認するための授業であることを自覚すること。

教職実践演習（中・高）〔日〕				単位数	2単位
授業コード	16267	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教員免許取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身につける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等、演習形式で授業を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を記述することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況（40%）			1	
2	課題レポート（30%）			1	
3	定期試験（30%）			1	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 演習①「青年教師としての在り方・生き方」（グループ討議）					
事前学修	青年教師としての在り方・生き方について自らの考えを整理して講義に臨むこと。 教職履修カルテを指示に従って提出すること。			2時間	
事後学修	青年教師としての在り方・生き方について学び得たことを記述して提出すること。			2時間	
2 演習②「教育課程の実際とICTの活用」（グループ討議）					
事前学修	教育課程の実際とICTの活用について自らの考えを整理して講義に臨むこと。			2時間	
事後学修	教育課程の実際とICTの活用について学び得たことを記述して提出すること。			2時間	
3 演習③「生徒指導の理論と実践」（グループ討議）					
事前学修	生徒指導の理論と実践について自らの考えを整理して講義に臨むこと。			2時間	
事後学修	生徒指導の理論と実践について学び得たことを記述して提出すること。			2時間	
4 演習④「学校運営と地域連携の在り方」（グループ討議）					
事前学修	学校運営と地域連携の在り方について自らの考えを整理して講義に臨むこと。			2時間	
事後学修	学校運営と地域連携の在り方について学び得たことを記述して提出すること。			2時間	

5 現地調査①「授業参観」（中学校）		
事前学修	授業実践（中学校）に学ぶ観点を確認しておくこと。	2時間
事後学修	授業実践（中学校）に学び得たことを記述して提出すること。	2時間
6 現地調査②「授業参観」（高等学校）		
事前学修	授業実践（高等学校）に学ぶ観点を確認しておくこと。	2時間
事後学修	授業実践（高等学校学校）に学び得たことを記述して提出すること。	2時間
7 現地調査③「教育の心」（訪問学校の校長による講話）		
事前学修	教育観について自らの考えを整理しておくこと。	2時間
事後学修	教育観について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
8 現地調査④「学校現場の実際」（訪問学校の教員とのグループ討議）		
事前学修	学校現場の課題について自らの問題意識を整理しておくこと。	2時間
事後学修	学校現場の課題について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
9 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」（グループ討議）		
事前学修	これからの若い先生に期待されていることについて自らの考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	これからの若い先生に期待されていることについて学び得たことを記述して提出すること。	2時間
10 演習⑥「女性教師としての生き方」（グループ討議）（元中学校長）		
事前学修	女性教師としての生き方について自らの考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	女性教師としての生き方について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
11 事例研究①「より良い授業を目指して」（現職教諭）		
事前学修	より良い授業について自らの考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	より良い授業について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
12 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」（現職教諭）		
事前学修	心の教育について自らの考えを整理して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	心の教育について学び得たことを記述して提出すること。	2時間
13 模擬授業①（中学校＜ロールプレイ含む＞）		
事前学修	自らが授業（中学校）を実施することを想定して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	自らが授業（中学校）を実施することを想定して、学び得たことを記述して提出すること。	2時間
14 模擬授業②（高等学校＜ロールプレイを含む＞）		
事前学修	自らが授業（高等学校）を実施することを想定して講義に臨むこと。	2時間
事後学修	自らが授業（高等学校）を実施することを想定して、学び得たことを記述して提出すること。	2時間
15 4年間の総括		
事前学修	教職課程の4年間の学びを振り返ることができるよう準備を整えて講義に臨むこと。	2時間
事後学修	教職課程の4年間の学びを通して学び得たことについて記述し提出すること。	2時間

試験等
定期試験，教職履修カルテ・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
教職履修カルテを評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』，文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編』，文部科学省 <参考書等> 担当者から別途指示する。
オフィスアワー
オフィスアワー： 【伊木】月曜日5限。随時メールで受け付ける。
連絡先
【伊木】higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 教員として必要な資質・能力が身についているか，現地調査，事例研究，グループ討議等を通して確認するための授業であることを自覚すること。

教職実践演習（中・高）〔現〕				単位数	2単位
授業コード	16269	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教員免許状取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等を中心として、演習形式で授業を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を明確に表現することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況（40%）				1
2	課題レポート（30%）				1
3	定期試験（30%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高校教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 演習①「青年教師としての在り方・生き方」（グループ討議）					
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。				2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。				2 時間
2 演習②「教育課程の実際とICTの活用」（グループ討議）					
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。				2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。				2 時間
3 演習③「生徒指導の理論と実践」（グループ討議）					
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。				2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。				2 時間
4 演習④「学校運営と地域連携の在り方」（グループ討議）					
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。				2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。				2 時間

5 現地調査①「授業参観」（中学校）		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
6 現地調査②「授業参観」（高等学校		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
7 現地調査③「教育の心」（訪問学校の校長による講話		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
8 現地調査④「学校現場の実際」（訪問学校の教員によるグループ討議）		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
9 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」（グループ討議）		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
10 演習⑥「女性教師としての生き方（グループ討議）		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
11 事例研究①「より良い授業を目指して」（現職教諭）		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
12 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」（現職教諭）		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
13 模擬授業①（中学校＜ロールプレイを含む＞）		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
14 模擬授業②（高等学校＜ロールプレイを含む＞		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間
15 4 年間の総括		
事前学修	教職履修カルテ等を通してこれまでの学びの記録を整理する。	2 時間
事後学修	授業の内容を踏まえて、教職課程全体の振り返りをする。	2 時間

試験等
16 定期試験を行う。内容は授業の各項目別の論述である。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に採点基準を示す。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 授業で指示 ○『中学校学習指導要領』， 文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』， 文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説総則編』， 文部科学省， ぎょうせい ○『中学校学習指導要領解説社会編』， 文部科学省， 日本文教出版 ○『高等学校学習指導要領解説総則編』， 文部科学省， 東山書房 ○『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』， 文部科学省， 教育出版 ○『高等学校学習指導要領解説公民編』， 文部科学省， 教育出版 <参考書等> ○『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）総則編』， 文部科学省， 東山書房 ○『中学校学習指導要領解説（平成30年告示）社会編』， 文部科学省， 東洋館出版社 ○『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総則編』， 文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』， 文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』， 文部科学省 ○その他は， 担当者から別途指示する。
オフィスアワー
火曜日 4時限
連絡先
tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教員として必要な資質・能力が身に付いているか， 現地調査， 事例研究， グループ討議等を通して確認する授業であることを自覚すること。

教職実践演習（中・高）〔人〕				単位数	2単位
授業コード	16271	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	立石 麻美子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
教職課程履修の総括として4年間の学びを踏まえ、教員免許取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。そのために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等、演習形式で授業を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	教職課程における学びを振り返り、教員として必要な知識・技能の修得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を記述することができる。				
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の活動状況（40%）				1
2	課題レポート（30%）				1
3	定期試験（30%）				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 演習①「青年教師としての在り方・生き方」（グループ討議）					
事前学修	青年教師としての在り方・生き方について、自分の意見を整理しておく。				2 時間
事後学修	授業を振り返り、青年教師としての在り方・生き方について、学びをまとめる。				2 時間
2. 演習②「教育課程の実際とICTの活用」（グループ討議）					
事前学修	教育課程の実際とICTの活用について、自分の考えをまとめる。				2 時間
事後学修	授業を振り返り、教育課程の実際とICTの活用について、実践する。				2 時間
3. 演習③「生徒指導の理論と実際」（グループ討議）					
事前学修	生徒指導の理論と実際について、自分の考えを整理する。				2 時間
事後学修	授業を振り返り、生徒指導の理論と実際について、学びをまとめる。				2 時間
4. 演習④「学校運営と地域連携の在り方」（グループ討議）					
事前学修	学校運営と地域連携の在り方について、自分の考えをまとめる。				2 時間
事後学修	授業を振り返り、学校運営と地域連携の在り方についてまとめる。				2 時間

5. 現地調査①「授業参観」（中学校）		
事前学修	中学校現場の実態について、調べて把握しておく。	2 時間
事後学修	授業参観を通して、気づいたこと、学んだことをまとめる。	2 時間
6. 現地調査②「授業参観」（高等学校）		
事前学修	高等学校現場の実態について、調べて把握しておく。	2 時間
事後学修	授業参観を通して、気づいたこと、学んだことをまとめる。	2 時間
7. 現地調査③「教育の心」（訪問学校の校長による講話）		
事前学修	教育の心について、自分の考えを整理しておく。	2 時間
事後学修	講話を通して、教育の心について、学んだこと、考えたことをレポートにまとめる。	2 時間
8. 現地調査④「学校現場の実際」（訪問学校の教員による小グループ討論）		
事前学修	学校現場の実際について、情報を収集し、自分の意見をまとめておく。	2 時間
事後学修	学校現場の実際について、訪問学校の教員による小グループ討論を通して、学んだこと、考えたことをレポートに整理する。	2 時間
9. 演習⑤「これからの若い先生に期待すること」（グループ討議）		
事前学修	これからの若い先生に期待することに関して、自分の意見を発表できるようにまとめる。	2 時間
事後学修	これからの若い先生に期待することに関するグループ討議を通して、学んだこと、考えたことをレポートにまとめる。	2 時間
10. 演習⑥「女性教師としての生き方」（グループ討議）（元中学校長）		
事前学修	講義資料を通して、女性教師としての生き方について自分の考えを整理する。	2 時間
事後学修	女性教師としての生き方について、グループ討議の内容を振り返り、レポートにまとめる。	2 時間
11. 事例研究①「より良い授業を目指して」（現職教諭）		
事前学修	より良い授業を目指して、自分の考えを整理する。	2 時間
事後学修	より良い授業を実践できるように、授業の内容を振り返り、レポートにまとめる。	2 時間
12. 事例研究②「心の教育をいかに実践するか」（現職教諭）		
事前学修	心の教育をいかに実践するか、自分の考えを整理する。	2 時間
事後学修	授業を振り返り、心の教育をいかに実践するか学んだことをレポートにまとめる。	2 時間
13. 模擬授業①（中学校＜ロールプレイを含む＞）		
事前学修	模擬授業を実践できるように、学習指導案を作成する。	2 時間
事後学修	模擬授業研究会を通して、得られた成果や課題を振り返りレポートにまとめる。	2 時間
14. 模擬授業②（高等学校＜ロールプレイを含む＞）		
事前学修	模擬授業を実践できるように、学習指導案を作成する。	2 時間
事後学修	模擬授業研究会を通して、得られた成果や課題を振り返りレポートにまとめる。	2 時間
15. 4 年間の総括		
事前学修	教職履修課程の学びを振り返り、自分の成果と課題をまとめる。	2 時間
事後学修	教職履修課程の学びを共有し、自分の成果と課題を今後にかせるように整理する。	2 時間

試験等
定期試験、教職履修カルテ・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
教職履修カルテを評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校学習指導要領』，文部科学省 『高等学校学習指導要領』，文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編』，文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』，文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』，文部科学省 <参考書等> 担当者から別途指示する。
オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
tateishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 ・教員として必要な資質・能力が身に付いているか、現地調査、事例研究、グループ討議等を通して確認する授業であることを自覚すること。

教職実践演習（栄養教諭）				【単位数		2単位					
授業コード		16273		科目ナンバリング		510Z0-4000-x2		開講年度学期		2025年度第2期	
担当者氏名		若本 ゆかり									
時間割備考											
授業形態（主）		2 演習									
授業形態（副）		1 講義									
担当形態		オムニバス									
研究分野（大学院）											
本授業の概要											
教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教育者としての愛情と使命感を深め、教育免許状取得までにさらに習得すべき知識や技能等を身に付ける。そのために、学校現場での研修を含む幅広い内容で授業を構成し、事例研究、グループ討議等、主に演習形式で授業を行う。											
アクティブラーニングの実施内容											
模擬授業・模擬保育											
到達目標										対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1		教職課程における学びをふりかえり、教育者としての愛情と使命感を深め、学びの成果と今後の課題を明確にするとともに、学校教育において必要とされる、教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。									
2											
3											
4											
5											
成績評価の基準										対応する到達目標の番号	
1		授業時の活動状況(40%)								1	
2		課題レポート(30%)								1	
3		定期試験(30%)								1	
4											
5											
実務経験のある教員による授業科目										実務あり	
実務経験の授業への活用方法											
児童生徒の食に関する指導に携わった経験を持つ講師による、児童生徒の食教育の現状と課題並びによりよい授業を行うための講義により、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。											
日本語以外の言語による授業											
授業予定一覧										事前・事後学修内容と時間	
1. 演習①（グループ討議）「栄養教諭としてのあり方」											
事前学修		栄養教諭のあり方について再確認する								120分	
事後学修		得られた意見をふりかえり、栄養教諭のあり方についてレポートにまとめる								120分	
2. 演習②（グループ討議）「研究授業のふりかえり」											
事前学修		教育実習日誌を読み返す								120分	
事後学修		得られた意見をふりかえり、自身の実習の総括を行う								120分	
3. 演習③（グループ討議）「食生活調査の方法-食文化・食環境をふまえて-」											
事前学修		食生活調査の方法について再確認する								120分	
事後学修		得られた意見をふりかえり、効果的な調査方法についてレポートにまとめる								120分	
4. フィールドワーク「児童の食生活と生活状況に関する調査」											
事前学修		前回のレポートを確認し、調査項目を考える								120分	
事後学修		調査結果から考察を行い、課題を抽出する								120分	

5. 演習④（グループ討議）「児童の食生活と生活状況に関する調査」		
事前学修	前回抽出された課題を確認し、課題解決に向けた方法を考える	120分
事後学修	得られた意見をふりかえり、効果的な解決方法についてレポートにまとめる	120分
6. 講義①「学校給食の意義と給食管理の実際」		
事前学修	特別活動における学校給食の位置づけについて再確認する	120分
事後学修	計画的かつ効果的な指導方法についてレポートにまとめる	120分
7. 講義②「児童生徒の食教育の現状と課題」		
事前学修	児童生徒の現状と健康課題について再確認する	120分
事後学修	課題解決のための効果的な指導方法についてレポートにまとめる	120分
8. 講義③「栄養教諭の職務内容とその役割」		
事前学修	栄養教諭制度と役割について再確認する	120分
事後学修	チームティーチングの効果についてまとめる	120分
9. 事例研究①「よりよい授業をめざして」（特別講義講師）		
事前学修	食に関する指導の目標を再確認する	120分
事後学修	学校給食を生きた教材として活用した指導案を考える	120分
10. 事例研究②「栄養教諭に求められる資質」（特別講義講師）		
事前学修	栄養教諭制度と役割について再確認する	120分
事後学修	栄養教諭の職務と資質について、気づいたことをレポートにまとめる	120分
11. 演習⑤（ロールプレイング）「食に関する指導における栄養教諭の対応」		
事前学修	チームティーチングを取り入れた指導案を考える	120分
事後学修	児童生徒の食にする指導について、気づいたことをレポートにまとめる	120分
12. 模擬授業①（対象：中学年）		
事前学修	中学年を対象とした指導案を考える	120分
事後学修	中学年を対象とした指導案を改善する	120分
13. 模擬授業②（対象：高学年）		
事前学修	高学年を対象とした指導案を考える	120分
事後学修	高学年を対象とした指導案を改善する	120分
14. 演習⑥「食に関する指導の実際とICTの活用」		
事前学修	ICT活用が効果的な授業を考える	120分
事後学修	ICTを活用した食に関する指導案を改善する	120分
15. 演習⑦「学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方」		
事前学修	これまでに履修した教職課程科目の授業資料を整理してふりかえる	120分
事後学修	教員として必要な資質・能力が身に付いているか自己評価し、実践的指導力の向上を図る	120分

試験等
定期試験。教職履修カルテ・課題レポートの提出。
試験のフィードバックの方法
教職履修カルテを評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）／文部科学省／東洋館出版社／201／9784491034607／冊子版
中学校学習指導要領／文部科学省／東山書房／361／9784827815795／冊子版
小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年告示）／文部科学省／東洋館出版社／141／9784491034690／冊子版
中学校学習指導要領解説 特別活動編／文部科学省／東山書房／275／9784827815788／冊子版
小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年告示）／文部科学省／東洋館出版社／95／9784491034669／冊子版
食に関する指導の手引―第二次改訂版―／文部科学省／東山書房／1200／9784827815757／冊子版
中学校学習指導要領（平29 技術・家庭編）／開隆堂出版／143／9784304021541／冊子版
オフィスアワー
○オフィスアワーは授業中に指示する。 ○質問は manaba で随時受け付ける。
連絡先
wakamoto@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教職課程履修生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教員として必要な資質・能力が身に付いているか現地調査、事例研究、グループ討議等を通して確認する授業であることを自覚すること。

介護等体験の理論				単位数	1単位
授業コード	16280	科目ナンバリング	510Z0-2000-x1	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	山本 幾子				
時間割備考	2期に変則開講				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
義務教育の教員免許に必須とされる介護等体験の意義について教師に求められる力量や資質と関係づけながら理解を深めるとともに、特別支援学校や社会福祉施設での体験に関する具体的留意事項について考察することを目的とする。実際の介護等体験で直接かかわることになる障害者や高齢者に関する基本的理解を深めるために、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、体験学習などのアクティブラーニングを多用して受講者自身が自己の人権意識の成長を実感できるようにする。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	義務教育の教員免許取得に必須とされる介護等体験について、その意義と実施手続き等を理解し説明することができる。			知識・技能	
2	特別支援学校や社会福祉施設の現状について理解し説明することができる。			知識・技能	
3	ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに配慮した相応しい関わり方を考え、具体的に表現することができる。			思考・判断・表現力	
4	介護等体験に求められる人権意識やコミュニケーション力等に関する自己の課題を明確にして向上や改善に向けた実践可能な方策を示すことができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題レポート（80%）			1／2／3／4	
2	期末試験（20%）			1／2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教師に求められる資質について様々な事例を提示して指導することにより、自己の人権意識の高揚に主体的に取り組む姿勢を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 介護等体験の意義					
事前学修	・テキストの関連ページに目を通して授業の概要を把握しておく（約30分）。			2時間	
事後学修	・講義内容をふり返り、課題レポートに取り組む（約1時間）。 ・介護等体験の手続きの概要や具体的な手順と方法を確認する（約30分）。			2時間	
2 人権意識を高める					
事前学修	・テキストの関連ページに目を通して授業概要を把握しておく（約30分）。 ・いじめや体罰の実態について提示された資料を読み込んでおく（約30分）。			2時間	
事後学修	・講義内容をふり返り、課題レポートに取り組む（約1時間）。			2時間	
3 共感的・受容的人間関係の考察					
事前学修	・テキストの関連ページに目を通して授業の概要を把握しておく（約30分）。			2時間	
事後学修	・講義内容をふり返り、課題レポートに取り組む（約1時間）。 ・講義中に提示された書籍を読んでケアに関する理解を深める（約3時間）。			2時間	
4 特別支援学校における体験と留意事項					
事前学修	・テキストの関連ページに目を通して授業の概要を把握しておく（約30分）。			2時間	
事後学修	・講義内容をふり返り、課題レポートに取り組む（約1時間）。 ・特別支援学校のホームページ等を閲覧して障害種によって異なる支援の実態を把握する（約3時間）。			2時間	

5 社会福祉施設における体験と留意事項		
事前学修	・テキストの関連ページに目を通して授業の概要を把握しておく（約30分）。	2時間
事後学修	・講義内容をふり返り、課題レポートに取り組む（約1時間）。 ・テキストや授業中に視聴した高齢者施設のDVDの内容を整理して、体験時の留意点を明確にする（約2時間）。	2時間
6 車いす介助体験、交流活動の企画立案		
事前学修	・高齢者施設における交流活動に関する情報をホームページ等を活用して入手しておく（約1時間）。 ・車いす操作に関する資料に目を通しておく（約30分）。	2時間
事後学修	・車いすの介助体験や交流活動の企画立案をふり返り、課題レポートに取り組む（約1時間）。 ・グループで立案した交流活動企画案について検討を重ね、次の発表準備や練習をする（約2時間）。	2時間
7 交流活動の企画案の発表と評価		
事前学修	・企画案の発表準備をグループで再確認しておく（約30分）。	2時間
事後学修	・全てのグループの発表内容や方法をふり返り、課題レポートに取り組む（約2時間）。	2時間
8 筆記試験、体験報告からの学び、まとめ		
事前学修	・これまでの学習内容をもとに介護等体験に関する知識を整理し、理解を深めておく（約2時間）。	2時間
事後学修	・講義内容をふり返り、課題レポートに取り組む（約1時間）。	2時間
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
課題レポートの提出、期末試験
試験のフィードバックの方法
授業時やmanabaを活用して解説やコメントをする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版』， ISBN 978-4-469-26876-8， 現代教師養成研究会編， 大修館書店
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー
質問は授業終了時点や電子メールで受け付ける。
連絡先
ikuko@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・「介護等体験の実践」を履修するには、この科目の単位修得が不可欠である。 ・1単位の授業であるため、3回以上欠席すると授業放棄の扱いになる。 ・全授業回数は8回で、初回の授業は9／24に実施予定。その後の授業実施予定は初回授業時に連絡する。 ・毎回座席を指定するので、manabaで事前に確認すること。

介護等体験の実践				【単位数		1単位			
授業コード		16290	科目ナンバリング		510Z0-3000-x1	開講年度学期		2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名		立石 麻美子							
時間割備考									
授業形態（主）		3 実験・実習・実技							
授業形態（副）		1 講義							
担当形態		単独							
研究分野（大学院）									
本授業の概要									
本授業を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めるとともに、ノーマライゼーションの視点から一人一人のありのままの姿を正しく見るという教職としての基本的な姿勢を身に付けることを目的とする。体験後は、グループディスカッションを通して体験を省察し、自己の成長と課題を明らかにする。特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行うとともに、必要な事前指導及び事後指導を行う。									
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション							
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1	特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。								
2	体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。								
3	体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。								
4	体験後の成果と課題を明らかにして述べることができる。								
5									
成績評価の基準						対応する到達目標の番号			
1	介護等の体験記録 （50%）						1/2/3/4		
2	課題レポート （50%）						2/3/4		
3									
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目				実務あり					
実務経験の授業への活用方法									
教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、より具体的な事前事後の指導を行うことで体験の充実を図り、教職としての資質向上を促す。									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間					
1. 介護等体験の実践に向けて									
事前学修	介護等体験の実践に向けて、介護等体験の理論の講義内容及びオリエンテーションの内容を振り返っておく。						2 時間		
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。						2 時間		
2. 介護等体験に向けた手続きの確認									
事前学修	介護等体験に向けた手続きに向けて、必要書類を準備しておく。						2 時間		
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。						2 時間		
3. 特別支援学校での介護等体験に向けた準備									
事前学修	特別支援学校での介護等体験に向けて、体験記録の記入や持ち物を確認しておく。						2 時間		
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。						2 時間		
4. 社会福祉施設での介護等体験に向けた準備									
事前学修	社会福祉施設での介護等体験に向けて、体験記録の記入や持ち物を確認しておく。						2 時間		
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。						2 時間		

5. 介護等体験に向けた健康管理		
事前学修	体験に向けて、日常的に相手に配慮した言葉掛けや行動を意識するとともに、基本的な健康管理を継続実施すること。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
6. 特別支援学校における介護等体験（2 日間）		
事前学修	特別支援学校における介護等体験について情報を収集し、事前打ち合わせに向けて準備しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
7. 社会福祉施設における介護等体験（5 日間）		
事前学修	社会福祉施設における介護等体験について情報を収集し、事前打ち合わせに向けて準備しておく。	2 時間
事後学修	講義内容を振り返り、課題レポートに取り組む。	2 時間
8. 特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行う。		
事前学修	体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること。	2 時間
事後学修	体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間
9. 特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行う。		
事前学修	体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること。	2 時間
事後学修	体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間
1 0. 特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行う。		
事前学修	体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること。	2 時間
事後学修	体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間
1 1. 特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行う。		
事前学修	体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること。	2 時間
事後学修	体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間
1 2. 特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行う。		
事前学修	体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること。	2 時間
事後学修	体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間
1 3. . 特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行う。		
事前学修	体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること。	2 時間
事後学修	体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間
1 4. 特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行う。		
事前学修	体験先に関する情報を収集し、事前打ち合わせの内容に沿って綿密な準備をすること。	2 時間
事後学修	体験記録を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間
1 5. 介護等体験の省察		
事前学修	介護等体験を振り返り、課題と成果を自分の言葉で表現できるように、発表の準備をする。	2 時間
事後学修	得られたフィードバックをもとに、学び得たことを蓄積して教育実習に活かせるようにすること。	2 時間

試験等
介護等の体験記録・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
介護等の体験記録を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ・本学作成『介護等の体験記録』（初回授業時に配付） ・「介護等体験の理論」で使用了ものを継続使用 ・授業時に別途資料配付
オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
tateishi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・「介護等体験の理論」の単位を修得した者のみ履修登録可能である。 ・全授業回数は8回で変則開講のため、詳細はmanabaで確認すること。 ・年度当初に実施する「介護等体験のオリエンテーション」への出席が不可欠である。 ・義務教育の教員免許取得の条件として7日間の学外体験が必須である。

中等教育実習事前事後指導【現】				単位数	1単位
授業コード	16300	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。				
2	教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することが出来る。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢（30%）				1／2
2	課題レポート（40%）				1／2
3	教育実習日誌（30%）				2
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校・高校教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法を指導するとともに、教育実習をふりかえっての成果と課題を自覚できるように指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
《事前指導》					
1 教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項					
事前学修	教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備をする。				2 時間
事後学修	実習校で授業実習をする科目・分野の教科書を熟読し、授業ノートの作成・補充をする。				2 時間
2 生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（教科指導及び学級指導）					
事前学修	教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備をする。				2 時間
事後学修	実習校で授業実習をする科目・分野の教科書を熟読し、授業ノートの作成・補充をする。				2 時間
3 特別な配慮が必要な生徒との関わり方（教科指導及び学級指導）					
事前学修	教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備をする。				2 時間
事後学修	実習校で授業実習をする科目・分野の教科書を熟読し、授業ノートの作成・補充をする。				2 時間
4 学級担任及び教科担任の服務、協働の重要性と教育効果					
事前学修	教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備をする。				2 時間
事後学修	実習校で授業実習をする科目・分野の教科書を熟読し、授業ノートの作成・補充をする。				2 時間

5 学校現場の教育課題（ＩＣＴの活用等）と対応方法、事務処理とその必要性		
事前学修	教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備をする。	2 時間
事後学修	実習校で授業実習をする科目・分野の教科書を熟読し、授業ノートの作成・補充をする。	2 時間
6 教育実習に向けた実践課題の整理と確認		
事前学修	教育実習に向けて、教育実習日誌等、必要な準備をする。	2 時間
事後学修	実習校で授業実習をする科目・分野の教科書を熟読し、授業ノートの作成・補充をする。	2 時間
《事後指導》		
7 教育実習の成果と課題の省察		
事前学修	教育実習を振り返り教育実習日誌等の整理をする。	2 時間
事後学修	授業で共有した内容を踏まえて、実習の振り返りをする。	2 時間
8 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化		
事前学修	教育実習を振り返り教育実習日誌等の整理をする。	2 時間
事後学修	授業で共有した内容を踏まえて、実習の振り返りをする。	2 時間
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
教育実習日誌・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
授業中に課題レポートや実習日誌などについてコメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ○『中学校学習指導要領解説社会編』，文部科学省，日本文教出版 ○『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』，文部科学省，教育出版 ○『高等学校学習指導要領解説公民編』，文部科学省，教育出版 ○中学校社会科教科書及び高等学校地理歴史科・公民科教科書 <参考書等> ○『中学校学習指導要領』，文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』，文部科学省 ○その他は，担当者から別途指示する。
オフィスアワー
1 期 木曜日3時限 2 期 火曜日 4 時限
連絡先
tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教育実習生として自覚の乏しい者，欠席の多い者，成績不良の者は，学外実習に参加することを認めない。 ○講義の時間帯以外に，模擬授業を実施することがある。

中等教育実習Ⅰ〔現〕				【単位数		4単位
授業コード	16310	科目ナンバリング	510Z0-4000-x4	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名	森 泰三					
時間割備考	学外実習					
授業形態（主）	3実験・実習・実技					
授業形態（副）						
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
本授業（教育実習）は、中学校または高等学校で3週間実施する。教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。						
アクティブラーニングの実施内容		体験学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性）	
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を 持って観察し、事実在即して記録することができる。					
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補 助的な役割を担うことができる。					
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地 に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。					
4	学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わるこ とができる。					
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	実習への参加姿勢（20%）					1/2/3/4
2	学外実習の評価（50%）					1/2/3/4
3	教育実習日誌（30%）					1
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
中学校、高等学校教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間				
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（10～20時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出						
事前学修	○教育実習校の指導教官の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 ○授業の実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教官に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。 ○教育実習日誌をていねいに作成し、学び得たことを蓄積すること。					毎日3時間以上
事後学修	毎日の実習のふりかえりをして教育実習日誌をまとめる。また、実習終了後に全体のふりかえりをして、教育実習日誌の全体のまとめをする。					毎日3時間以上

試験等
実習総時間数120時間以上を以って、単位認定の対象とする。
試験のフィードバックの方法
教育実習終了後に実習内容について、個別にコメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ○『中学校学習指導要領』， 文部科学省 ○『高等学校学習指導要領』， 文部科学省 ○『中学校学習指導要領解説社会編』， 文部科学省， 日本文教出版 ○『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』， 文部科学省， 教育出版 ○『高等学校学習指導要領解説公民編』， 文部科学省， 教育出版 ○各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> ○実習校及び担当者から別途指示する。
オフィスアワー
1 期 木曜日 3 時限 2 期 火曜日 4 時限
連絡先
tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚の乏しい者，欠席の多い者，成績不良の者は，学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し，実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてのマナーを厳守すること。

中等教育実習ⅠⅡ〔現〕				【単位数】		2単位			
授業コード		16320	科目ナンバリング		510Z0-4000-x2	開講年度学期		2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名		森 泰三							
時間割備考		学外実習							
授業形態（主）		3 実験・実習・実技							
授業形態（副）									
担当形態		クラス分け							
研究分野（大学院）									
本授業の概要									
本授業（教育実習）は、高等学校で2週間実施する。教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。									
アクティブラーニングの実施内容				体験学習					
到達目標						対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1	生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業においては視点を持って観察し、事実即して記録することができる。								
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制を理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。								
3	生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、ICTを活用して授業を実践することができる。								
4	学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解し、教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。								
5									
成績評価の基準						対応する到達目標の番号			
1	実習への参加姿勢（20%）						1／2／3／4		
2	学外実習の評価（50%）						1／2／3／4		
3	教育実習日誌（30%）						1		
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目				実務あり					
実務経験の授業への活用方法									
中学校、高等学校教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実習校の指導教員と連携して教育実習を実施し、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間					
○実習校と連携を図り、指導計画に即して実施する。 ○教育実習は、次のような内容で実施する。 ・校長、教頭、教育実習指導主任、学年主任の講話（学校経営、学年経営、指導組織等） ・生徒指導主事の講話（校務分掌） ・教務主任の講話（校務分掌） ・進路指導主事の講話（校務分掌） ・教科指導の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・教科指導以外の参観（生徒の実態や課題の把握、観察・記録） ・参加実習（授業及び教科担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（学級担任の職務の一部を補助的に担当） ・参加実習（特別活動、学校事務等、教科指導以外の職務の一部を補助的に担当） ・生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた学習指導案の作成 ・授業実習（5～15時間） ・研究授業の実施（学習指導に必要な基礎的技術の習得、ICTの活用） ・授業に関する研究協議 ・教育実習の反省 ・教育実習日誌の作成及び教育実習の整理 ○教育実習日誌の提出									
事前学修	○教育実習校の指導教官の指導のもと、生徒の実態と学習指導要領の指導事項を踏まえて目標を設定し、目標達成にふさわしい言語活動や学習活動を位置づけ、指導と評価の充実を図った学習指導案を作成すること。 ○授業の実施に当たっては、事前に教育実習校の指導教官に学習指導案を提出し、綿密な準備をすること。 ○教育実習日誌を丁寧に作成し、学び得たことを蓄積すること。 実習中は予習・復習に3時間以上は必要						毎日3時間以上		
事後学修	毎日の実習のふりかえりをして、教育実習日誌をまとめる。また、実習終了後に全体のふりかえりをして、教育実習日誌の全体をまとめる。						毎日3時間以上		

試験等
○実習総時間数60時間以上を以って、単位認定の対象とする。
試験のフィードバックの方法
教育実習終了後に、実習内容について個別にコメントする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ○『高等学校学習指導要領』，文部科学省 ○『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』，文部科学省，教育出版 ○『高等学校学習指導要領解説 公民編』，文部科学省，教育出版 ○各実習校が指定した文部科学省検定教科書 <参考書等> ○実習校及び担当者から別途指示する。
オフィスアワー
1期 木曜日 3時限 2期 火曜日 4時限
連絡先
tmori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚の乏しい者，欠席の多い者，成績不良の者は，学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し，実習校の教育方針及び教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてのマナーを厳守すること。

栄養教育実習事前事後指導				単位数		1単位					
授業コード		16350		科目ナンバリング		510Z0-4000-x1		開講年度学期		2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名		若本 ゆかり									
時間割備考											
授業形態（主）		1 講義									
授業形態（副）		2 演習									
担当形態		単独									
研究分野（大学院）											
本授業の概要											
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。											
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育									
到達目標								対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1		教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。									
2		教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解し、記述することができる。									
3											
4											
5											
成績評価の基準								対応する到達目標の番号			
1		○授業への参加姿勢(20%)						1/2			
2		○課題レポート(50%)						1/2			
3		○教育実習日誌(30%)						2			
4											
5											
実務経験のある教員による授業科目				実務あり							
実務経験の授業への活用方法											
栄養教諭として児童生徒の食に関する指導に携わった経験を持つ講師による講義並びに指導により、教育実習の意義と目的及び基本的な内容と方法への理解を促すとともに、教育実習をふりかえり成果と課題を自覚できるようにする。											
日本語以外の言語による授業											
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間							
1 栄養教育実習の目的、教育実習生としての義務と責任、教員としての法令遵守事項（事前指導①）											
事前学修		教育実習の目的と自身の課題を明確にする								120分	
事後学修		実習に向けた準備を進める								120分	
2 児童生徒一人一人の良さを認め、やる気を引き出す指導（食に関する指導及び学級指導）（事前指導②）											
事前学修		実習校の沿革と教育方針について確認する								120分	
事後学修		実習に向けた準備を進める								120分	
3 特別な配慮が必要な児童生徒との関わり方（食に関する指導及び学級指導）（事前指導③）											
事前学修		研究授業に必要な資料を収集する								120分	
事後学修		実習に向けた準備を進める								120分	
4 学級担任、教科担任、栄養教諭の服務、協働の重要性と教育効果（事前指導④）											
事前学修		学習指導案を作成する								120分	
事後学修		実習に向けた準備を進める								120分	

5 学校現場の教育課題（ＩＣＴの活用等）と対応方法，事務処理とその必要性（事前指導⑤）		
事前学修	指導目標を十分に達成できる教材が準備できているか確認する	120分
事後学修	実習に向けた準備を進める	120分
6 栄養教育実習に向けた実践課題の整理と確認（事前指導⑥）		
事前学修	対象学年の実態に応じた指導案になっているか確認する	120分
事後学修	実習に向けた準備を進める	120分
7 栄養教育実習の成果と課題の省察（事後指導①）		
事前学修	実習内容についてグループディスカッションを行いふりかえる	120分
事後学修	実習をふりかえり，体験したことや学んだこと，気づいたことをレポートにまとめる	120分
8 望ましい教師像と取り組むべき課題の具体化（事後指導②）		
事前学修	教員に求められる資質能力を確認する	120分
事後学修	自身の課題と課題解決に向けた方法をレポートにまとめる	120分
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
教育実習日誌・課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌・課題レポートを評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
小学校学習指導要領（平成２９年告示）／文部科学省／東洋館出版社／201／9784491034607／冊子版
中学校学習指導要領／文部科学省／東山書房／361／9784827815795／冊子版
小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成２９年告示）／文部科学省／東洋館出版社／141／9784491034690／冊子版
中学校学習指導要領解説 特別活動編／文部科学省／東山書房／275／9784827815788／冊子版
小学校学習指導要領解説 家庭編（平成２９年告示）／文部科学省／東洋館出版社／95／9784491034669／冊子版
食に関する指導の手引―第二次改訂版―／文部科学省／東山書房／1200／9784827815757／冊子版
中学校学習指導要領（平２９ 技術・家庭編）／開隆堂出版／143／9784304021541／冊子版
オフィスアワー
○オフィスアワーは授業中に指示する。 ○質問は manaba で随時受け付ける。
連絡先
wakamoto@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教育実習生としてふさわしい在り方で受講すること。 ○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○講義の時間帯以外に、模擬授業を実施することがある。

栄養教育実習				単位数	1単位
授業コード	16360	科目ナンバリング	510Z0-4000-x1	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	若本 ゆかり				
時間割備考	学外実習				
授業形態（主）	3 実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本実習（栄養教育実習）は、小学校または中学校で1週間実施する。教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	児童生徒との関わりを通して実態や課題を把握するとともに、指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即到して記録することができる。				
2	教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びに組織体制について理解し、学級担任及び教科担任等の補助的な役割を担うことができる。				
3	児童生徒の実態及び学習指導要領を踏まえた適切な学習指導案を作成し、学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面でICTを活用して食に関する指導を実践することができる。				
4	学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解し、様々な活動の場面で適切に児童生徒と関わるこができる。				
5	児童生徒および現職の栄養教諭の教育活動に接することにより、学校教育における食に関する指導の有効な機能について考察することができる。				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	○実習への参加姿勢(20%)				1／2／3／4／5
2	○教育実習評価表による評価(50%)				1／2／3／4／5
3	○教育実習日誌(30%)				1
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教育実習校の指導教員による実践的な指導により、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 校長・教頭・実習指導主任の講話					
事前学修	実習校の教育方針と学級構成を確認しておく				120分
事後学修	指導講話の要点を記録し、資料と共に整理・保管する				120分
2. 教務主任の講話					
事前学修	実習校の教育方針と学級構成を確認しておく				120分
事後学修	指導講話の要点を記録し、資料と共に整理・保管する				120分
3. 家庭・保健等教科担当教諭の講話					
事前学修	実習校の教育方針と学級構成を確認しておく				120分
事後学修	指導講話の要点を記録し、資料と共に整理・保管する				120分
4. 栄養教諭の講話					
事前学修	実習校の教育方針と学級構成を確認しておく				120分
事後学修	指導講話の要点を記録し、資料と共に整理・保管する				120分

5. 授業参観		
事前学修	参観する授業の目的と内容を整理しておく	120分
事後学修	参観した授業の実際の概要，児童・生徒の実際を記録し，まとめる	120分
6. 学級活動および給食時間における指導の参観，補助		
事前学修	食に関する全体計画と各学年の指導目標を確認しておく	120分
事後学修	給食時間の指導内容，児童・生徒の実際を記録し，まとめる	120分
7. 給食放送指導，配膳指導，後片づけ指導の参観，補助		
事前学修	食に関する全体計画と各学年の指導目標を確認しておく	120分
事後学修	給食時間の指導内容，児童・生徒の実際を記録し，まとめる	120分
8. 児童生徒集会，委員会活動，クラブ活動等における指導の参観，補助		
事前学修	特別活動の内容と指導計画を確認しておく	120分
事後学修	特別活動の指導内容，児童・生徒の実際を記録し，まとめる	120分
9. 学習指導案の作成，教材研究等（食育の視点をふまえた学年別指導案の検討）		
事前学修	研究授業の準備を進める	120分
事後学修	使用教材についてふりかえり確認と検討を行う	120分
10. 学習指導案の作成，教材研究等（板書計画・ICTの活用）		
事前学修	研究授業の準備を進める	120分
事後学修	研究授業についてふりかえる	120分
11. 教科・特別活動における研究授業（生きた教材としての学校給食の活用）		
事前学修	研究授業の準備を進める	120分
事後学修	研究授業についてふりかえる	120分
12. 教科・特別活動における研究授業（各教科における食に関する指導）		
事前学修	研究授業の準備を進める	120分
事後学修	研究授業についてふりかえる	120分
13. 校内における連携・調整の参観，補助		
事前学修	食に関する指導の校内連携について確認しておく	120分
事後学修	連携の実際を記録し，まとめる	120分
14. 授業に関する批評会		
事前学修	研究授業報告資料を作る	120分
事後学修	研究授業についてふりかえる	120分
15. 栄養教育実習の反省会		
事前学修	教育実習報告資料を作る	120分
事後学修	教育実習についてふりかえる	120分

試験等
教育実習日誌の提出
試験のフィードバックの方法
教育実習日誌を評価後、返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）／文部科学省／東洋館出版社／201／9784491034607／冊子版
中学校学習指導要領／文部科学省／東山書房／361／9784827815795／冊子版
小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年告示）／文部科学省／東洋館出版社／141／9784491034690／冊子版
中学校学習指導要領解説 特別活動編／文部科学省／東山書房／275／9784827815788／冊子版
小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年告示）／文部科学省／東洋館出版社／95／9784491034669／冊子版
食に関する指導の手引―第二次改訂版―／文部科学省／東山書房／1200／9784827815757／冊子版
中学校学習指導要領（平成29 技術・家庭編）／開隆堂出版／143／9784304021541／冊子版
＜参考書等＞ 実習校および担当者から別途指示する。
オフィスアワー
○オフィスアワーは別途指示する。 ○質問は manaba で随時受け付ける。
連絡先
wakamoto@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教育実習生としてふさわしい在り方で教育実習に臨むこと。 ○教育実習生として自覚の乏しい者、欠席の多い者、成績不良の者は、学外実習に参加することを認めない。 ○自らの責任の重さを自覚し、実習校の教育方針を十分理解したうえで教育計画に従うこと。 ○教育実習生としてのマナーを厳守すること。

教職特講Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	16370	科目ナンバリング	510Z0-3000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	吉田 万里子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、将来教職に就くために必要な資質や総合的な人間力を身につけることを目的とする。 授業では、青少年期にある生徒の心身の発達を踏まえた学校現場の様々な具体的事例や課題を扱った演習、グループワーク、ディスカッション等を行う。人権感覚を重視した視点でのコミュニケーション能力や表現力、対応力を養い、教育実習に備える。また、基礎的な教職教養や一般教養を身につけ、面接試験や模擬授業、模擬指導等の対策を行い、学生同士が学科を越えて学び合い教員採用試験に備える。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1 青少年期の心身の発達の特徴を理解し、様々な場面に応じた生徒への支援や指導について考え説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	2 教育実習を想定した様々な場面での挨拶やミニスピーチ等が発表できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	3 教員採用試験に必要な教職教養全般及び教育法規等の基本的な事項を理解し、説明や記述ができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1／2／3	
2	課題レポート 30%			1／2／3	
3	演習及び定期試験 50%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校、特別支援学校で教諭及び管理職として、学習指導、生徒指導、学級経営、部活動指導、学校運営・経営等に携わった経験を活かして、学校現場での具体的な場面を想定した指導について、人権感覚を重視した視点で考察させ、学生に教育者としての使命感と自覚ある態度、基本的な教育実践力を身につけることができるように促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 教職特講Ⅰの概要について					
事前学修	○シラバスで教職特講1の学修内容を確認し、自分が教職を目指す理由を3分程度で発表できるように準備しておくこと。				2時間
事後学修	○教職を目指す仲間の意見を聞いて自分が学んだことや参考になったことをまとめておくこと。				2時間
2 「教職」の魅力とは（先輩たちからのメッセージ）					
事前学修	○採用試験や教育実習等について先輩たちに質問したいことをまとめておくこと。				2時間
事後学修	○先輩たちからのメッセージを聞き、教職を目指すうえでの自分の課題をまとめておくこと。				2時間
3 教員採用試験に向けて（試験概要）					
事前学修	○受験する自治体の試験内容や日程などを調べ把握しておくこと。				2時間
事後学修	○受験する自治体の過去問問題集を解いてみておくこと。				2時間
4 教員採用試験に向けて（自己推薦文等作成）					
事前学修	○自分の強みや弱み等を分析し、パーソナルデータをまとめておくこと。				2時間
事後学修	○受験する自治体の実施要項を調べ、その様式に沿った自己推薦文や自己アピールをまとめておくこと。				2時間

5 教員採用試験に向けて（教職教養全般）		
事前学修	○受験する自治体の教職教養試験の内容を把握しておくこと。	2時間
事後学修	○受験する自治体の教職教養試験の過去問問題集過去3年分を解いておくこと。	2時間
6 教員採用試験に向けて（教育法規等）		
事前学修	○採用試験に頻出する教育法規について把握しておくこと。	2時間
事後学修	○現場で指導する場合に直接かかわってくる教育法規について説明ができるようにしておくこと。	2時間
7 教員採用試験に向けて（個人面接）		
事前学修	○志望動機などの基本的な質問について1分以内で回答できるよう準備しておくこと。	2時間
事後学修	○面接ノートを作成し回答例をまとめておくこと。	2時間
8 教員採用試験に向けて（集団面接・集団活動、グループワーク等）		
事前学修	○過去問問題集から課題を事前に把握しておくこと。	2時間
事後学修	○自分の苦手な分野の課題について調べ基本的な知識を把握しておくこと。	2時間
9 教員採用試験に向けて（模擬授業・場面指導等）		
事前学修	○過去問問題集で内容を把握し練習しておくこと。	2時間
事後学修	○模擬授業ノート、場面指導ノートを作成しておくこと。	2時間
10 教育実習に向けて（実習概要）		
事前学修	○実習校のホームページなどを事前に調べ教育方針や最近の様子を把握しておくこと。	2時間
事後学修	○教育実習で必要となる教材等の準備を可能な範囲で進めておくこと。担当クラスでのあいさつやミニスピーチの練習をしておくこと。	2時間
11 教育実習に向けて（思春期の中学生・高校生の理解・自分探し、ディスカッション、スピーチ）		
事前学修	○自分の思春期を振り返り思い出に残っていることを可能な範囲でまとめておくこと。	2時間
事後学修	○教師としての中高生との向き合い方について自分の考えをまとめておくこと。	2時間
12 教育実習に向けて（思春期の中学生・高校生の理解・不適応と問題行動、ディスカッション、スピーチ）		
事前学修	○教育実習で起こりそうな事例と対応をまとめておく。	2時間
事後学修	○ロールプレイングで体験したことから、共感的理解と指導についてまとめておくこと。	2時間
13 教育実習に向けて（教科指導・生徒指導等、ディスカッション、スピーチ）		
事前学修	○教育実習で起こりそうな事例と対応をまとめておく。	2時間
事後学修	○ロールプレイングで体験したことから、共感的理解と指導についてまとめておくこと。	2時間
14 教育実習に向けて（人権教育・特別支援教育等、ディスカッション、スピーチ）		
事前学修	○教育実習で起こりそうな事例と対応をまとめておく。	2時間
事後学修	○ロールプレイングで体験したことから、共感的理解と指導についてまとめておくこと。	2時間
15 教育現場の課題と方向性について（教育時事等）		
事前学修	○新聞やニュースで最近の教育に関する記事を読み、感想をまとめておくこと。	2時間
事後学修	○文科省や自治体教育委員会のホームページを調べ、教育に関する最新の話題や課題について把握しておくこと。	2時間

試験等
16週目に筆記試験を行う。内容は教職教養全般と教育法規等の基本的な事項及び様々な場面指導の方法について。
試験のフィードバックの方法
試験終了後にmanabaで解説や模範解答を掲示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考書等＞ 学習指導要領概説（総則編） 高等学校希望者は高等学校版 中学校希望者は中学校版 生徒指導提要 毎回の授業でプリントを配布する
オフィスアワー
質問や相談は、授業終了後及び随時メールで受け付ける。
連絡先
・メールアドレスs8314@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教職相談室及び教職学生閲覧室を積極的に利用すること。 ○事前に予告する対策講座に積極的に参加すること。

教職特講ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	16380	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	吉田 万里子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、専門職としての教員に必要な資質を養い、総合的な人間力を高めながら、教育実習及び教員採用試験に必要なとなる基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。 授業では、学校現場の様々な具体的事例や課題を扱いながら、演習、グループワーク、ディスカッション等で、受講生同士の学び合いを深め、豊かなコミュニケーション能力と人権感覚を身につけ、教育実習に備える。さらに、教育実習後は、学んだことを礎に、教育実践力を磨いていく。また、教職教養全般及び面接試験や模擬授業、場面指導等の対策を行い教員採用試験に備える。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1 自分の理想とする教師像を明確にもち、説得力のある志願理由及び自分の長所、教師への適性を記述したり発表したりすることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	2 教育実習を想定した様々な場面での児童生徒への支援や指導について考え、説明したり発表したりすることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	3 教員採用試験に必要な教職教養全般及び教育法規等を理解し、適切な説明や記述ができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1／2／3	
2	課題レポート 30%			1／2／3	
3	演習及び定期試験 50%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校、特別支援学校で教諭及び管理職として、学習指導、生徒指導、学級経営、部活動指導、学校運営・経営等に携わった経験を活かして、学校現場での具体的な場面を想定した指導について、人権感覚を重視した視点で考察させ、学生に教育者としての使命感と自覚ある態度、基本的な教育実践力を身につけることができるように促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 教職特講Ⅱの概要について					
事前学修	○シラバスで教職特講Ⅱの学修内容を確認し、自分が目指す教師像を3分程度で発表できるように準備しておくこと。			2時間	
事後学修	○教職を目指す仲間の目指す教師像の発表を聞いて、自分が学んだことや参考になったことをまとめておくこと。			2時間	
2 教師の役割（期待される教師像、身分と服務）					
事前学修	○文科省や自分が受験する自治体の求める教師像を確認しておくこと。			2時間	
事後学修	○教育公務員としての立場を服務規定等から確認し教師の職務について確認しておくこと。			2時間	
3 教育実習に向けて（学校組織と校務分掌の理解、教科指導、生徒指導、特別活動等）					
事前学修	○自分の実習校のホームページで学校要覧等を確認し、学校組織や公務分掌を把握しておくこと。			2時間	
事後学修	○実習校の特徴的な取り組みや指導体制について把握したことの概要をまとめておくこと。			2時間	
4 教育実習に向けて（学級指導、スピーチ）					
事前学修	○実習校での自己紹介のあいさつを3分程度で発表できるように準備しておくこと。			2時間	
事後学修	○場面に応じた挨拶やスピーチのアイディアノートを作成しておくこと。			2時間	

5 教育実習に向けて（教科指導、模擬授業等、ディスカッション、スピーチ）		
事前学修	○教科の模擬授業を想定して授業の流れなど（略案）を準備しておくこと。	2時間
事後学修	○模擬授業演習で課題となったことを改善する指導についてまとめておくこと。	2時間
6 教育実習に向けて（教科指導、模擬授業等、ディスカッション、スピーチ）		
事前学修	○教科の模擬授業を想定して授業の流れなど（略案）を準備しておくこと。	2時間
事後学修	○模擬授業演習で課題となったことを改善する指導についてまとめておくこと。	2時間
7 教育実習に向けて（生徒指導、場面指導等、ディスカッション、スピーチ）		
事前学修	○教育実習での様々な場面について想定し、指導法や対応策について考えまとめておく。	2時間
事後学修	○教育実習での様々な場面についての指導法や対応策について、ディスカッションを参考にまとめておく。	2時間
8 教育実習のまとめ（実習中の課題から学ぶ・ディスカッション）		
事前学修	○教育実習中の課題を発表できるようにまとめておく。	2時間
事後学修	○教育実習中の課題の発表やディスカッションをもとに教育実習のまとめをしておく。	2時間
9 教員採用試験に向けて（教育実習で学んだことをもとにした面接等）		
事前学修	○教育実習で学んだことを項目別にそれぞれ1分以内で回答できるように面接ノートにまとめておく。	2時間
事後学修	○面接練習でスムーズに回答できなかった部分を検討し、改善した回答をまとめておく。	2時間
10 教員採用試験に向けて（志願書・自己推薦書等をもとにした面接等）		
事前学修	○志願書・自己推薦書等と教育実習で学んだことを含めて、面接で回答する内容を確認しておく。	2時間
事後学修	○面接練習でスムーズに回答できなかった部分を検討し、改善した回答をまとめておく。	2時間
11 教員採用試験に向けて（教職教養全般・教育法規等）		
事前学修	○教職教養全般・教育法規等の問題集を見直し復習しておく。	2時間
事後学修	○教職教養全般・教育法規等の問題集を見直し忘れていた分野の復習・確認をしておく。	2時間
12 教員採用試験に向けて（個人面接・集団討論）		
事前学修	○個人面接・集団討論等の過去問や復元資料を確認しておく。	2時間
事後学修	○個人面接・集団討論等の練習でスムーズに回答できなかった部分を確認し復習しておく。	2時間
13 教員採用試験に向けて（集団活動・グループワーク）		
事前学修	○集団活動・グループワーク等の過去問や復元資料を確認しておく。	2時間
事後学修	○集団活動・グループワーク等の練習でスムーズに回答や活動ができなかった部分を確認し復習しておく。	2時間
14 教員採用試験に向けて（模擬授業等）		
事前学修	○模擬授業の過去問や復元資料を確認して練習しておく。	2時間
事後学修	○模擬授業練習でスムーズにできなかった分野や部分を確認して復習しておく。	2時間
15 教員採用試験に向けて（時事問題等）		
事前学修	○時事問題等を確認し面接ノートに整理しておく。	2時間
事後学修	○面接練習で確認した最新の資料をもとに時事問題等を面接ノートに整理しておく。	2時間

試験等
16週目に筆記試験を行う。内容は、教職教養全般、教育法規等、教育実習、教育時事、様々な場面指導等について。 教育実習が終了したら指定する日までに「教育実習レポート」（指定様式）を提出する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後にmanaba等で解説や模範解答を掲示する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考書等＞ 学習指導要領解説（総則編） 高等学校希望者は高等学校版 中学校希望者は中学校版 生徒指導提要 教育実習で使用する教科書 毎回の授業でプリントを配布する。
オフィスアワー
質問や相談は、授業終了後及び随時メールで受け付ける。
連絡先
・メールアドレス s8314@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教職相談室及び教職学生閲覧室を積極的に利用すること。 ○事前に予告する対策講座に積極的に参加すること。

教職特講ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	16390	科目ナンバリング	510Z0-4000-x2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	吉田 万里子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業では、専門職である教師として総合的な教育実践力及び総合的な人間力を、高め磨いていくことを目的とする。 授業では、来年度より学校現場で教職に就くことを想定して、学級担任としての学級経営力を身につけることができるよう、テーマ別の模擬授業や模擬指導を行い、人権感覚を重視した視点で検討し合うことで実践力を養い、学校現場の実態に応じた学習指導力、生徒指導力、コミュニケーション能力、危機管理能力を身につける。 本年度教員採用試験受験者を対象とする。					
アクティブラーニングの実施内容		模擬授業・模擬保育			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1 学級通信及び教科通信を作成し、それを用いた学級経営、教科指導に関する模擬授業や模擬指導を行い、検討し合い改善することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	2 生徒理解及び生徒指導、人権等に関する模擬授業や模擬指導を行い、検討し合い、改善することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	3 危機管理に関する模擬授業や模擬指導を行い、検討し合い改善することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1／2／3	
2	課題レポート 30%			1／2／3	
3	演習 50%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
中学校、特別支援学校で教諭及び管理職として、学習指導、生徒指導、学級経営、部活動指導、学校運営・経営等に携わった経験を活かして、学校現場での具体的な場面を想定した指導について、人権感覚を重視した視点で考察させ、学生に教育者としての使命感と自覚ある態度、基本的な教育実践力を身につけることができるように促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 教職特講Ⅲの概要について					
事前学修	○来春から教師として働くことを想定して、現時点で不安なことや悩みなどを受講生同士で共有できるようにまとめておく。				2時間
事後学修	○受講生同士で共有できたことをもとに、解決のために自分が取り組むべきことをまとめておく。				2時間
2 現場で求められる教師とは（教育公務員としての自覚・学校組織の理解）					
事前学修	○教育実習校の校務分掌や教職員の職務遂行の様子を思い出し、実習では体験できなかった内容の仕事について調べておく。				2時間
事後学修	○学校現場で必要となる各校務分掌ごとの仕事や職務内容についての知識と職務遂行にあたって注意することを確認しておく。				2時間
3 教師の仕事（教科指導・教科担任の仕事、教科通信）					
事前学修	○最初の教科指導の時間の指導内容について具体的内容をまとめておく。				2時間
事後学修	○自分の担当する教科の最初の指導（教科開き）をイメージして指導案（一時間分）を作成しておく。				2時間
4 教師の仕事（学級経営・学級担任の仕事、学級通信）					
事前学修	○最初の学級活動の時間（学級開き）の指導内容について具体的内容をまとめておく。				2時間
事後学修	○自分の担任する学級の最初の指導（学級開き）をイメージして指導案（一時間分）を作成しておく。				2時間

5 教師の仕事（生徒指導、教育相談、進路指導）		
事前学修	○生徒指導、教育相談、進路指導等について教育実習中に学んだことをまとめる。	2時間
事後学修	○生徒指導、教育相談、進路指導について基本的な内容や実務及び注意点等をまとめる。	2時間
6 教師の仕事（人権教育、特別支援教育、特別活動等）		
事前学修	○人権教育、特別支援教育、特別活動等について、教育実習中に学んだことをまとめる。	2時間
事後学修	○人権教育、特別支援教育、特別活動等について、基本的な内容や実務及び注意点等をまとめる。	2時間
7 模擬授業①（教科指導・ディスカッション）		
事前学修	○自分の担当する教科の模擬授業（指導案・ワークシート・教科通信等）の準備をしておく。	2時間
事後学修	○自分の担当する教科の模擬授業を発表して改善点を確認し、指導案・ワークシート・教科通信等を修正して完成させる。	2時間
8 模擬授業②（教科指導・ディスカッション）		
事前学修	○自分の担当する教科の模擬授業（指導案・ワークシート・教科通信等）の準備をしておく。	2時間
事後学修	○自分の担当する教科の模擬授業を発表して改善点を確認し、指導案・ワークシート・教科通信等を修正して完成させる。	2時間
9 模擬授業③（教科指導・ディスカッション）		
事前学修	○自分の担当する教科の模擬授業（指導案・ワークシート・教科通信等）の準備をしておく。	2時間
事後学修	○自分の担当する教科の模擬授業を発表して改善点を確認し、指導案・ワークシート・教科通信等を修正して完成させる。	2時間
10 模擬授業④（学級指導・ディスカッション）		
事前学修	○自分の担当する学級の学級開きの模擬授業（指導案・ワークシート・学級通信等）の準備をしておく。	2時間
事後学修	○自分の担当する学級の学級開きの模擬授業を発表して改善点を確認し、指導案・ワークシート・学級通信等を修正して完成させる。	2時間
11 模擬授業⑤（学級指導・ディスカッション）		
事前学修	○自分の担当する学級の学級開きの模擬授業（指導案・ワークシート・学級通信等）の準備をしておく。	2時間
事後学修	○自分の担当する学級の学級開きの模擬授業を発表して改善点を確認し、指導案・ワークシート・学級通信等を修正して完成させる。	2時間
12 模擬授業⑥（学級指導・ディスカッション）		
事前学修	○自分の担当する学級の学級開きの模擬授業（指導案・ワークシート・学級通信等）の準備をしておく。	2時間
事後学修	○自分の担当する学級の学級開きの模擬授業を発表して改善点を確認し、指導案・ワークシート・学級通信等を修正して完成させる。	2時間
13 教師の仕事（学校現場の課題と対応、ディスカッション）		
事前学修	○模擬授業の発表とディスカッションから学んだことをもとに学校現場での様々な対応についてまとめる。	2時間
事後学修	○学校現場での具体的な課題への対応についてまとめる。	2時間
14 教師の仕事（学校現場の危機管理、模擬授業、模擬指導、ディスカッション）		
事前学修	○教育実習中に体験した学校現場の危機管理をまとめる。	2時間
事後学修	○学校現場の危機管理について、具体的な事例ごとに指導方法をまとめる。	2時間
15 まとめ（教師の仕事1年間）		
事前学修	○教師の1年間の仕事を教科指導や学級指導、学校行事等の視点で確認しておく。	2時間
事後学修	○教師の1年間の仕事を教科指導や学級指導、学校行事等の視点で整理し、心の準備と共に必要なものを確認し準備していく。	2時間

試験等
課題レポートとして、「学級通信」と学級開き指導案（ワークシート等を含む）、「教科通信」と教科指導案（ワークシート等を含む）を提出する。
試験のフィードバックの方法
16週目に模擬授業、模擬指導、課題レポート等への助言や講評を行う。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考書等＞ 学習指導要領解説（総則編） 高等学校希望者は高等学校版 中学校希望者は中学校版 教育実習で使用した教科書 生徒指導提要 毎回の授業でプリントを配布する。
オフィスアワー
質問や相談は、授業終了後及び随時メールで受け付ける。
連絡先
・メールアドレス s8314@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○事前に予告する対策講座に積極的に参加すること。 ○教職相談室及び教職学生閲覧室を積極的に利用すること。